

茗溪



正月
2024
令和6年
no.1119

目次

- グラビア …… 01 ～ 02
- 茗溪倶楽部やどかり …… 03 ～ 04
- 謹賀新年（茗溪の士業者） …… 05
- 新年のご挨拶 …… 06
- 年頭挨拶 …… 07
- 茗溪・筑波産業人全国展開発表の会報告 …… 08 ～ 09
- Peer Garden（茗溪アルハム） …… 10 ～ 12
- 令和6年度教職相談窓口一覧 …… 13
- 知の提供・誌上講座「間違いだらけの地球温暖化論争」 …… 14 ～ 15
- 元素講話こぼれ話 第3話 …… 16
- 筑波大学の思い出 …… 17 ～ 19
- 茗溪・東西南北 …… 20
- 追悼録 …… 21
- 桐の葉のつどい …… 21
- 筑波大学は今 …… 22
- 茗溪学園だより …… 23
- 令和5年度秋の叙勲おめでとうございます …… 24
- 広報 …… 24 ■ 表紙のことば …… 24 ■ 編集後記 …… 24



桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群
グローバル・コミュニケーション学群
航空・マネジメント学群
教育探求科学群 (2023年4月開設予定)
※設置準備構想中

桜美林学園 理事長・小池 一夫

学長 畑山 浩昭

入学部相談役 川田 孝一 (昭39教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学入学部インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO

SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っています。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若狭会担当：取締役 常務執行役員 岡本 俊一

〈昭和56年 第一学群 社会学類 卒業〉

<https://www.sekisho.co.jp/>

KAIT

力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。

■工学部

機械工学科 機械工学コース
機械工学科 航空宇宙学コース
電気電子情報工学科
応用化学科

■創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

■応用バイオ科学部

応用バイオ科学科 応用バイオコース
応用バイオ科学科 生命科学コース

■情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

■健康医療科学部

看護学科(看護師・保健師養成課程)
管理栄養学科(管理栄養士養成課程)
臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄 (S52 理) (神奈川若狭会会 長)

I R 室 望月 正大 (S51 理) (同 副会長)

公務員対策室 林 忠 (S58第1自)



神奈川工科大学

KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030

TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>



- ① 宣揚歌 (11/25 香川茗溪会)
- ② 懇親会 (11/25 山形県支部)
- ③ 懇親会 (11/25 香川茗溪会)
- ④ エール (11/25 山形県支部) 鳥羽聡 (H9 筑体) 事務局長による原慶明 (S43 教大植) 山形大学名誉教授への叙勲エール
- ⑤ 役員交代 (11/25 山形支部) 在任 10 年に及んだ津田浩 (S58 筑一自) 前支部長への花束贈呈
- ⑥ 懇親会 (10/21 山口支部) 和室長机の上の豪華な会席
- ⑦ 支部総会 (10/21 山口支部) 総会と懇親会は別室であった。会場費の高騰により、今後は検討したいということであった。どの支部でも、会場確保が喫緊の課題となっているようだ。

桐の葉の頃



- ⑧宣揚歌 (12/02 山梨支部)
- ⑨乾杯 (12/02 山梨支部)
- ⑩万歳三唱 (12/02 山梨支部)
- ⑪宣揚歌 (11/25 宮城支部)
- ⑫宣揚歌 (11/25 東京茗溪会) 東京茗溪会は近隣の支部に案内を出していた。招きに応じた大石進 (S56 筑体) 神奈川茗溪会事務局長は、宣揚歌を見事にリードした。
- ⑬記念撮影風景 (11/25 東京茗溪会) 撮影に並ぶ参加者や来賓、機敏に動くスタッフ、快いざわめきが伝わってくる。





頼りになる 街の同窓

茗溪倶楽部 やどかい MEIKEI crab

- (1) MEIKEIは「茗溪」のローマ字
(2) crabは、「やどかい (hermit crab)」の英訳
「club」を「crab」に、洒落ました

●茗溪気質

「帰宅しましたら、会誌夏号が届いておりました。嬉しく楽しく晩酌をしながら読み始めました。…永年変わらぬ四季号…心底感謝し、大磐石の我が茗溪会と誇らしく思うことです」と、仙台在住の市橋功氏（S32教大健）の便りである。

「とりとめもなく雑字書きで大失礼でございますが、歓びの余りをお伝えいたしたく、一啓いたしました。ご免下さい」と

と末尾に認められていた。会誌を読み終え、そのお気持ちのまま出した様子が覗える。7月28日の消印がある。

「翌朝、暑いあつい仙台の一日が始まりました」と、手紙は続く。

「ベッドに在って昨夕の続きで会報を読みました。…16頁を見てビックリしました」とある。上の写真をご覧になつて驚いたということである。

このスナップは「私が真ん中で、隣の方はやはり32年卒の…最年長参加生として写真班の方がカメラを向けてくれたことでした。…私の歓びようが満面に溢れており、私自身、気に入っておる一景写であります。…それがどんな訳あつてか《頼りになる街の同窓》ということ、この写真を掲載していただいたこと…私としましては生涯に誇ることです…」

新聞記事の切抜きが同封されていた。

はろタイム 382段の習慣 自信深め

「月に数回、宮城県庁18階の展望台まで階段で上る高齢者がいる」。都市伝説のようになつた話を聞きつけ、現場を訪ねた。

約束の時間。カチツ、カチツとステッキを突く音を響かせながら現れたのは市橋さん(89)。「仙台市太白区」だ。白髪に眼鏡姿の素朴な雰囲気だが、聞けば元体育教師。3年前から腰のリハビリ代わ



ペースを乱さず階段を上る市橋さん
11月17日

宮城県庁の階段上る仙台の89歳

りに始め、月6回は欠かさない習慣という。

県庁階段は1階から18階まで382段。腹をくくって同行取材スタート。平時の心拍に近いリズムをキープしながら、市橋さんは歩を進める。踊り場から見える外の景色は徐々に広がり、全身を巡る血が次第に熱を帯びる。「見直そう、食べ過ぎ飲み過ぎラクし過ぎ」「脱メタボ、ごころせすに運動だ」。階段に県が掲示した標語に叱咤激励されながら、ノンストップで登頂した。所要時間は7分58秒。「やればやるほど自信が出てくるんですよ」と笑顔の市橋さん。県民の健康増進をうたう県職員に「お勧めしたい」そうだ。

(報道部・小関みゆ紀)

『河北新報』6月10日の記事 河北新報社提供

上記記事の電子データが欲しくて河北新報社に、その旨のお願いをした。早速、メール(23/09/22 14:17)が来て、以下の文面が添えられていた。「河北新報社・著作権担当の目黒と申します。平素より大変お世話になっております。記事のデータを添付いたしました。取材にご協力いただいた市橋さまのご要望ですので、無料、書類申請不要でお届けします。」

「都市伝説のようになつた話を聞きつけての取材ということであつた。」「箱根駅伝の補欠部員でした。2年間在籍しました。買い出しや先輩方を訪ねての寄付金集め、部員の足のマッサージ、荷物運びなど裏方の庶務をやつてきました。正選手にはなれませんでした。部員でありましたことは誇らしく思つております」と、手紙に追記されていた。

ふと、東京高師の運動会を取材した『時事新報』の一文を思い出した。(『茗溪』夏号1117号9頁)

「全生徒六〇〇名一人も欠かさず、何

れかの競技に加わりて競走場裡に現ること、劣者敗者が後るるとも終わりを全うする美風は、他の得て模すべからざる所のものたるべく」と。

「頼りになる街の同窓」は、斯様な茗溪気質を有する同窓であつて、有名人でも街の顔役でもない。同窓とのひと時に、「茗溪の酒は美酒でした。心から堪能できました」(手紙)と喜べる人という。

記念祝賀会を終え、閑散とした会場の出口で振り返るや場内に向かい、「ありがとうございました」と深々と一礼をして去つた市橋氏の姿が思い出される。



● 茗溪・筑波の殻

第一期のやどかりが彼の地を踏んで半世紀を迎える。この間に、世に出でたるやどかりは、どうしているだろう。

やどかりの多くは潮間帯から水深数百メートルの深海底まで生息し、汽水域、波打ち際、岩礁、珊瑚礁、砂泥底等の環境に棲み分ける。亜熱帯から熱帯では、海岸付近の陸上で生活するものもいる。

我が同窓は世界各地を生存域として、多種多様な海域（職域）に進出している。遅くとも「やどかり」である。

一般に、やどかりは大なり小なり、殻に身体を合わせるのではなく、身体に殻を合わせるという厄介な宿業をもつ。

斯くの如き宿業持ちの同窓（やどかり）は、己の殻を「習性」とするか「個性」とするかはさておき、殻持ちなりの付き合い方もあるだろう。そこで、かの付き合い方を「茗溪倶楽部やどかり」として表現できないだろうかと思考した。

我がやどかりは、「十脚目」にして、その「十脚」を都合に応じて活用する。外敵から身を護るために蓋をする脚、捕食する脚、移動する脚など：

同様に、我が同窓（やどかり）にも、下記の如き「十脚」のアイテムを活用していただこうと思うがいかがだろう。

夏号で、右記の如く言挙げさせていだき、こうして、正月を迎えた。

● 十脚の名称と役割

左記に挙げた十脚については、これから順々に説明をさせていたが、まずは、第3脚から始めるべく動き出した。

十脚目やどかり科 各脚部の名称と役割

1 脚	M eikai Membership	茗溪会について、入会の手続き
2 脚	E ncourage	学生や同窓の支援や寄付(呼びかけ)
3 脚	I ntroduce	同窓の士業者、お店や会社等の紹介
4 脚	K nowledge	知の交流(公開講座等の講師紹介・出版広告等)
5 脚	E mployment counseling	就職相談・起業開発相談・求人窓口
6 脚	I ncentive	同窓のお店等の割引やサービス等の紹介
7 脚	c omrade	同窓照会、新たな同窓組織や会合の呼びかけ
8 脚	r egion organization	地域組織の紹介・事業や行事開催の案内
9 脚	a rchive	記録照会(季刊誌「茗溪」、地域組織発行の機関誌等)
10 脚	b ureau	茗溪会事務局への問合せ、大学からの情報等

● 第3脚の士業から始めよう

同窓の士業者は意外と多い。一般に「八士業」や「十士業」に当たる方々を探すべく、各支部総会に参加した役員が下記アンケートにて情報を集めた。

以下の該当する事項にレ点をつけてください。

会員登録と会費納入について

- 1 ☐ 茗溪会に会員登録したいと思っていた。
- 2 ☐ 茗溪会員だが、茗溪会費納入の仕方がわからない。
- 3 ☐ 茗溪会員として登録しているかどうかわからない。
- 4 ☐ 最近、茗溪会から季刊誌「茗溪」などが届かない。

茗溪創基150年記念寄付について

- 1 ☐ 寄附の仕方がわからない。
- 2 ☐ 「茗溪創基150年記念誌」が欲しい。
- 3 ☐ 団体に寄付したいが、その方法がわからない。

「頼りになる街の同窓」について

- 1 ☐ 自分自身が士業者であるから登録したい。
- 2 ☐ 同窓に士業者がいるから紹介したい。

ご記入ありがとうございます。後日、茗溪会事務局から連絡させていただきます。

こうして、「茗溪倶楽部やどかり」の趣旨にご賛同いただき、誌上にお集まりいただいた。もちろん、役員が参加させていた支部総会や懇親会から得られた限られた情報であるから、不完全極まりない。不完全極まりないが、ここから始めるしかない、誌上紹介に踏み切った。

たかだか20名ほどの方々である。このわずかな同窓の紹介を皮切りとして、多くの同窓が名を連ねていく。士業者や医療医薬関係者、商店経営者や起業家、芸術家や研究者、農林水産業を生業とする同窓など、多くが集う「やどかり名鑑」ができればと願う。

このような広がりから始まる。見果てぬ初夢ではある。



茗溪会徳島支部総会

謹賀新年

茗溪の士業者は全国各地にいらっしゃるはずですが、ぜひ情報をお寄せ下さい。
「頼りになる街の同窓」として紹介させていただきます。

▶該当士業

弁護士・弁理士・司法書士・行政書士・公認会計士・
税理士・土地家屋調査士・不動産鑑定士・社会保険労
務士・中小企業診断士・建築士・医師、その他

▶連絡先

茗溪会 peer@meikei.or.jp ☎03-3941-0136

福岡 一雄 (S32 教大 法政(茗溪会 理事)) 社会保険労務士/福岡経営労務事務所 (東京都社会保険労務士会/元常任理事/葛飾支部顧問 年金記録確認東京地方第三者委員会/元委員 東京商工会議所/元専門相談員) (事務所) 〒125-0042 東京都葛飾区金町2-27-3 (連絡先) TEL: 090-8775-2552 FAX: 047-361-2618	一般社団法人 茗溪会 監事 弁護士 小泉 淑子 (昭和41教大法政) シティユーワ法律事務所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-2 丸の内三井ビル https://www.city-yuwa.com	中小企業診断士 経済産業大臣認定 (東京都中小企業診断士協会 正会員) 経営コンサルタント (公財)日本生産性本部認定 「日本のものづくりの中小企業を元気にしたい」 藤田 宗男 (1981年・第一学群・社会学類卒) E-MAIL fujitafujita2002@yahoo.co.jp TEL 080-6712-7164 ★ものづくり補助金、事業再構築補助金等 採択実績多数…お気軽にお問合せ下さい★
貝塚司法書士事務所 所長・香山 恭慶 (大阪司法書士会会員 昭和57年 第一学群社会学類卒) 昭和・平成・令和と大阪・谷町にて司法書士一筋！ 令和元～5年 大阪司法書士会 会長 〒540-0037 大阪市中央区内平野町一丁目2番6-701号 TEL06-6942-2554 e-mail kayama@kki.biglobe.ne.jp	AE海老名・綾瀬法律事務所 弁護士 中道 徹 (神奈川県弁護士会 S58・第二学群・生物学類卒) ☎ 046-205-3780 HP www.ebiaya.com 神奈川県海老名市の弁護士です。	くれたけ法律事務所 弁護士 佐賀 豪 (東京弁護士会 平成4年入学 第一学群 社会学類) 東京都新宿区市谷船河原町6番地 キャナルサイド呉竹2階 Mail: lawyer.t.saga@mbr.nifty.com ☎ 03-5229-5301
横浜ベイサイド法律事務所 弁護士 畔柳 秀勝 (平成4年 第2学群 人間学類卒) 横浜市中区太田町4-55 TEL045-226-5454 関内駅または馬車道駅近く http://www.yokohama-bayside.jp/ ※事務所名で検索してください。	大和ポラリス総合法律事務所 代表弁護士 須田 和則 (【神奈川県弁護士会所属】 平成6年人間学類卒／ 平成8年社会学類卒) 〒242-0021 神奈川県大和市中央1-3-20 大和苑ビル2階 大和駅(小田急線・相鉄線)徒歩1分 ☎ 046-200-7363 https://polarislo.com お問合せはこちら	兵庫県司法書士会会長 司法書士 野上 英則 野上・中嶋司法書士事務所 〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘一丁目2番5号 tel 06-6434-1430 fax 06-6434-1431 e-mail nb1590@nifty.com
 小西経営計算センター KONISHI 労働保険事務組合 (一社)中小企業経営労務指導協会 社会保険労務士 小西 恵美 (東京都社会保険労務士会 '96 第一学群社会学類卒 '92 茗溪学園高等学校卒) 〒170-0013 豊島区東池袋3-2-3 第一主田ビル401 TEL 03-3983-5764 https://www.konishi-office.tokyo	一般社団法人 茗溪会 監事 公認会計士・ 税理士 飯塚 良成 (昭和63慶大商) 飯塚会計事務所 横浜市青葉区しらとり台14-7 TEL 045-988-0846 FAX 045-988-0847	会員みなさまの情報を お待ちしております。 

新年のご挨拶

一般社団法人 茗溪会
理事長 井口 武雄



明けましておめでとうございます。
茗溪会会員の皆様におかれましては爽やかに新しい年をお迎えになられたこととお慶びを申し上げます。

2000年の年明けに始まりましたコロナ禍は昨年終息に向かい始めました。その結果、街には活気が戻り行かう人々の表情も穏やかになっているように思います。各種の行事等も復活しております。このまま完全終息に向かうことを願うところでございます。

茗溪会は一昨年創基一五〇周年を迎えました。コロナ禍の影響を受けつつも記念式典の開催することが出来ました。加えて加納治五郎先生の「自我共栄」の名言が揮毫された扇をお届けすることも出来ました。延期されていた

た「茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会」は昨年の12月9日に全国から約80人のご参加を得て茗溪会館で実施され多くの方々にご満足をいただきました。残る記念行事は記念誌の発行であります。現在編集も最終段階を迎えており、今年の3月末には発刊する予定であります。

茗溪会は「会員の皆様が明るく元気に活動できる場」を目指して様々の取り組みを行っております。母校は1872年・明治5年に開設された師範学校に始まり名前は変わりつつも東京教育大学、筑波大学へと続いてきました。この間開設の目的であった「近代日本を創る人材を育成する教育者を創る」ことを果たすため、卒業生は教育界の発展に心血を注いできました。日本の教育界を育て、発展する中心的役割を担ってきたのであります。

ところが、筑波大学になってからは企業、官庁、士・師等の教育界以外で活躍する卒業生が大部分を占めるようになりました。このような現状を踏まえて教育界と産業界の二つを柱とする同窓会に進化することとして茗溪会内に茗溪・筑波産業人倶楽部を創設しました。2018年のことであります。教育界についての対外的活動は以前から行っている教員を目指す学生に対する試験対策を中心とする活動等を継続してまいります。産業人倶楽部では大學生と卒業生が率直に将来のことやキ

ャリアを磨く方策等を話し合うキャリアアカフェとオンラインで学生と卒業生が思いを語り合う「ぶっちゃけ相談会」を実施しております。キャリアアカフェには今日までに卒業生が289人、学生は772人が参加しております。

地域の茗溪会との交流も昨年は活発に行いました。2022年4月の理事会におきまして確認されました地域組織への役員派遣に従いまして矢野常務理事を中心として理事が多くの地域茗溪会の総会に出席いたしました。伺った総会の数は21に上ります。会場では役員と会員の皆様と率直に懇談をすることが出来ました。

活発になった活動ではありますが茗溪会にはなお多くの課題があります。

まず会費の納入率を上げて財政を健全化するものであります。残念ながら今日においても会員の方々の会費の納入率は5.8パーセントにとどまっております。今年度から茗溪会の会計を会費に関するものと会館に関するものとに分けることにしました。その結果会館に関するものについては黒字であります。が会費に関するものについては大幅な赤字であることが明確になっております。改善策の一つとして過去会費を支払いただいていたが最近途絶えている会員の方々に直接呼びかける手紙をお送りして会費の納入をお願いすることを致しました。残念ながら住所不明で返送される方もありますがこれを

機にお支払いをして下さる方もかなりいらっしゃると思います。

二つ目は昨年もしましたが会員の減少であります。現在会員候補の中心は筑波大学の卒業生であります。加入していただく方は必ずしも多くはありません。この対応の一つとして先に述べました「キャリアアカフェ」と「ぶっちゃけ相談会」に参加された学生に加入を呼びかけるとともに企業がブラスを設けて学生に説明をする筑波大学業界研究会の会場に茗溪会のブースを設けて資料の提供や相談にのる活動を行っております。

三つ目は地域の茗溪会の総会に伺って明らかにしたことでもあります。それは茗溪会と地域の茗溪会及び地域の会員の方との絆が極めて弱いもしくは絆が意識されていないということでもあります。このことが茗溪会に対する会費の納入率の低さの一因かと思えます。今後よりしつかりと地域茗溪会との交流を深める必要があります。加えて「茗溪会〇〇支部」との呼称を使用することを考えております。

会員の皆様におかれましては引き続きご意見をお寄せいただきますとともに対応策の実施につきましては積極的なお取り組みをお願い申し上げます。結びに会員の方々の皆様のご多幸をお祈りいたし新年のご挨拶と致します。

筑波大学長年頭挨拶

筑波大学長 永田 恭介



明けましておめでとうございます。
旧年中は、茗溪会の皆様には様々なご支援をいただき誠にありがとうございました。

繰り返される変異ウイルスの出現のたびに感染拡大が起りましたが、日本社会は、なんとか感染症の拡大を最小限に抑えて、本格的にウィズ・コロナの日常へと変わりました。本学においては、授業について、オンラインの良さを活かしつつ、原則オンサイトで実施し、課外活動についての制限も解除しました。

昨年10月1日に開学50周年を迎え、9月30日に創基151年筑波大学開学50周年式典を開催しました。来賓祝辞を、文部科学大臣の代理として安江伸夫文部科学大臣政務官、マハティール・ビン・モハマッド元マレーシア首相、フランス共和国グルノーブル・アルプ大



学ヤシン・ラクネツシユ学長から頂戴しました。また、ノーベル物理学賞受賞から50年を迎えられた江崎玲於奈元学長からのビデオメッセージが上映されるなど、

盛大に開催することができました。その式辞で『これからは開学100年に向け、開学以来の「新構想大学」を「未来構想大学」に発展させてまいります。建学の理念に掲げられた精神のうち、「学

際性」や「国際性」については取組が進み、国内でも存在感ある大学へと発展してきましたが、「大学や社会の固

定化」への対応については、更なる取組が必要だと感じています。大学改革の担い手として、固定化された社会を変革する原動力としての歩みを、力強く進めてまいります。』と申し上げます。

前日の記念式典（つくば国際会議場）に続いて、10月1日に筑波キャンパスで開学50周年記念イベント「DESIGN [THE FUTURE Marche]」を開催しました。オープニングセレモニーでは、国内功労者のみなさまに感謝状を贈呈いたしました。その後、大学会館を中心に筑波キャンパス各所で様々なイベントが行われ、多くの人々で賑わいました。

これまでに築き上げてきたレガシー、様々な教育・研究の成果を礎に、次の50年に向かってしっかりと歩み続けなければなりません。研究力と人材育成力を磨き上げ、世界に伍する大学へと成長できるように研鑽を続けなければなりません。本年4月に法人化後20年を迎えます。法人化とは、国立



安江伸夫文部科学大臣政務官



マハティール元マレーシア首相



ヤシン グルノーブル・アルプ大学長



マハティール元マレーシア首相

大学の経営体への転換を意味しています。国からの運営費交付金は大学活動の基盤を支えるものではあっても、大学の夢を叶えるためには全く十分なものではありません。

本学の経営強化を図り、全筑波大学人が協力して、本学の夢、本学に関わる者と関わった者の夢、本学に期待してくれている人々の夢を実現してまいります。

本学は激動するグローバル社会の中で、社会を変革するエンジンとして、世界的なインパクトを生み出し、社会の既存の価値を変えるような教育・研究を行います。伝統ある貴会と同窓生諸兄弟には、ますますのご発展を祈念申し上げますとともに、本学の様々な活動にご理解をいただき、本年も引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



茗溪創基150周年記念 茗溪・筑波産業人倶楽部



●茗溪・筑波産業人倶楽部が 開催された

師走初めの土曜の午後、東京は晴天であった。この日、全国各地から茗溪会館に続々と会員がやってきた。受付は一階と二階に分け、来場者の滞留を避けた。



2階受付(「茗溪の間」前)
参加者を応対する會田代理

参加者は、東京、千葉、埼玉、茨城、神奈川、福島、栃木、群馬、新潟、長野、佐賀、福岡、愛媛、徳島、兵庫、愛知、大阪、奈良と、全国各地に及ぶ。

新型コロナウイルスに加えてインフルエンザの流行が早くから予想されていた。本部事務局は、12月開催が決定した時点から大々的な広報は控え、定時総会参加者や各支部宛の案内にとどめ、95人と想定内の参加規模に収めることができた。

●四年越しの茗溪創基の 記念行事

茗溪創基一五〇年記念事業の先行行事としてこの会は、令和2年秋(10/3)に開催される予定であったが、その年の夏、新型コロナウイルス感染拡大が激甚となった。延期を決断し、10月理事会で翌年(10/2)実施としたが、事態は好転せず、茗溪創基150年の年、令和4年10月に再々延期と

した。こうして延期を繰り返し、ようやく、令和5年の暮れに開催することができた。実に、四年越しの開催である。

●異業種交流の会

「茗溪創基一五〇年記念 茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会」、これがこの会の名称である。

延期を重ねる度に内容に変更が加えられてきたが、趣旨は、「全国で異業種に就く同窓の交流広場の提供」といったところで、この会合を魁として、全国各地に異業種交流の試みが広がればという願いが込められている。

会の最後の「振り返り」で、司会が、「開催時期はどのあたりがいいか」という問いに、五月・六月と十月・十一月に賛同が集中した。

「このような会合は年に何回、開催してほしいと思うか」の問いには、年四回の希望が多かった。会合の開催意味は大いにあるように感じた。

●交流会の流れ

遠方から参加される方々に配慮し、「午後開催、夕刻閉会」
顔見知り同士で固まらないように、「交流機会を人為的に設定」

二点を運営の大原則として、プログラムを策定した。正午開始、四時閉会と時間設定し、前半一時間を「記念講演」、後半三時間を「交流広場」とした。

●記念講演 複合危機を越えて明日を拓く

講師の長瀬要石氏(S35東教農経)は、農林省、経企庁、大臣秘書官、通産省、国土庁を歴任された官僚で、現在は、NPO法人開発政策研究機構理事、公益財団法人都市化研究公室評議員会議長として活躍され、高い見識をお持ちである。

多忙な中で、快く講演を引き受けていただいたが、それから4年を経っていた。演題や講演内容にも変更が加えられた。講演は、「半世紀を俯瞰する」ことから切り出された。

I 1995年を分水嶺とする四半世紀

II 複合危機とそのインパクト

III 2050年からのバックキャスト

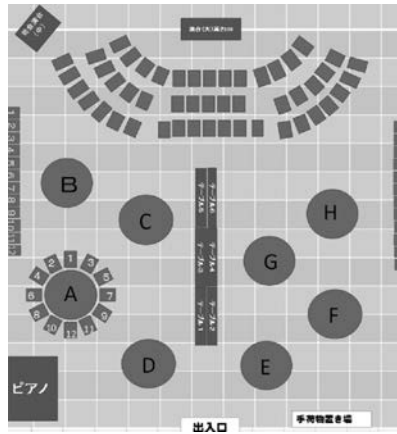
IV 明日をどう拓くか
刺激的な課題と新鮮な視点が矢継ぎ早に提出され、参加者は静かな熱気に包まれていった。



記念講演「複合危機を越えて明日を拓く」に聴き入る参加者。講演は時間通り始まった。3段の弧型席は満席となり、会場窓側に用意された左右の席もすぐに埋まった。

●異業種・異文化交流会

左は会場図である。大テーブルが8脚ある。それぞれにテーブルマネージャー（理事）とフロアマネージャー（事務局員）を配置し、各テーブルの司会進行や運営を任せた。



テーブルマネージャー（小泉理事）の司会進行により自己紹介が進むEテーブル。

左の写真は、テーブル毎に自己紹介をしている様子である。理事の進行で、一人90秒で自己紹介をしていく。各テーブルに10名以上の参加者である。時間は20分前後となり、テーブルによる時間差が生じる。自己紹介が終了したテーブルから「小さな乾杯」が始まる。



全員の自己紹介が終わり、小さな乾杯をするBテーブルの面々。ホッとした笑顔のテーブルマネージャー（高橋理事）

右は「小さな乾杯」である。自己紹介が続くテーブルの様子も後方に見える。

「小さな乾杯」の波が鎮まると、廣田則夫（S53 筑一社）、谷出正直（H05 筑修体）の両理事により、産業人倶楽部の発足とその展望、その事業として展開されているキャリアアカフェが紹介された。

情報提供の後、「大きな乾杯」のために参加者は予め指定されたテーブルへと移動し、名刺交換を繰り返していった。

各テーブルで名刺交換が一通り終わると、会場全体で「大きな乾杯」に移る。

早朝から遠路はるばるお越しいただいた佐賀の支部長の松雪誓（S61 筑体）、経営するスポーツウェルネス企画会社とともに東京から佐賀に移転した笠原美鈴（H27 筑修体）、いちご農家として佐賀で新規就農した池田美由紀（H20 筑二資）のお三方が乾杯の音頭をとられた。



大きな乾杯が終わり、参加者相互の交流が始まった。1時間30分の短い時間であったが、交流が盛んに行われた。

参加者には、事前に「参加者紙上紹介」（二〇文字以内）を記述送信してもらい、冊子化して参加者全員に配布した。参加者はその冊子を手交しに交流を広げ、深めていった。

この会合が化学反応を起こす触媒として機能する気配が会場に広がる。会には、跡見学園の高橋雅樹常務理事や協同出版の小貫輝雄会長など、賛助会員にも多く参加していただいた。

交流会は、時間通り、3時45分に終了し、弧型席に集合した。ざわめきの中で、司会の唐突な依頼を受けながら、愛知の大棟耕介氏（H04 筑体）が、クラウン（道化師）芸を披露した。

瞬く間に静寂と化した会場に、拍手と歓声が広がる。異業種交流だけじゃない。異文化交流もまた大いに期待できる。そのような予感を与えてくれた。



閉会に演じられた大棟氏による大道芸の様子。軽妙なトークの流れに大技小技がつぎつぎと繰り出され、歓声が沸き起こった。

「今回は、直売コーナーや展示ブースを設けてみませんか？」という司会の提案に、（株）グッドアイを設立した板橋英之群馬大学教授（H03 筑博化）は、開発した製品を熱く語り、次回は持参しますと申し出るに及び、一同の拍手喝采を浴びた。

阿江通良（S57 筑博体）副理事長、太田圭筑波大学学長特別補佐のご挨拶をもって閉会の辞とし、大石進（S56 筑体）のリードによる恒例の「宣揚歌」へと移った。

学生服姿に身を固めた大石進氏の登場は参加者の心意気を一気に引き上げ、幾重にも連なる弧型の肩組が大きく左右に揺れていた。

笑顔と賑わいの中で、会は閉じた。



教室の仲間との写真だろうか。背景の建物は木造建築であることから、大塚校舎S館かと思う。後列右端が小松喬生。

Peer Garden

茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？

そびゆる数学像の裾を
ひそかに支えることの意味

●小松喬生(S24理1)のよう

若くあかるい 歌声に

雪崩は消える 花も咲く

青い山脈 雪割桜

空のはて

きょうもわれらの 夢を呼ぶ

昭和24年夏に上映された「青い山脈」の主題歌の一節で、西條八十が作詞した。

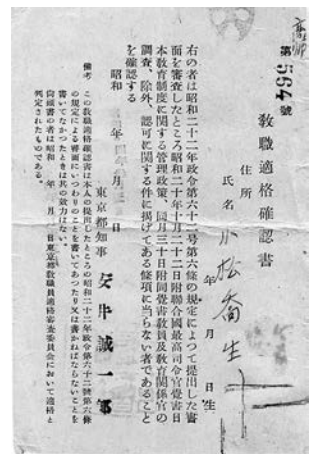
「青い山脈」は石坂洋二郎の同名小説を映画化したもので、東宝争議の中で作られた今井正監督作品である。

青森県出身の石坂は、大学卒業後、弘前高女や秋田の横手高女で教鞭を執っていた。戦前だが、その体験をもとに「青い山脈」を書き上げたものと思われる。



宮城を背景に、友人と語らう小松。終戦後は飢えとの闘いだった。「夏休みは帰省した同級生の賄い分で食いつなげた」と聞いておると、小松のお嬢様の談である。

「青い山脈」が上映された年の春に、小松喬生は一片の通知を受け取った。



右の紙片は、「教職適格確認書」である。非常に読みにくい。

右の者は昭和22年政令第62号第6条の規定によって提出した書面を審査したところ昭和20年10月22日付連合国最高司令官覚書日本教育制度に関する管理政策、同月30日付同覚書教員及教育関係官の調査、除外、認可に関する件に掲げてある条項に当たらない者であることを確認する

昭和24年3月1日
東京都知事 安井誠一郎
以上が右の紙片の内容である。

昭和20年、連合国軍占領下の日本では、昭和27年までの7年間にわたり、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ、SCAP)の統制下に置かれた。

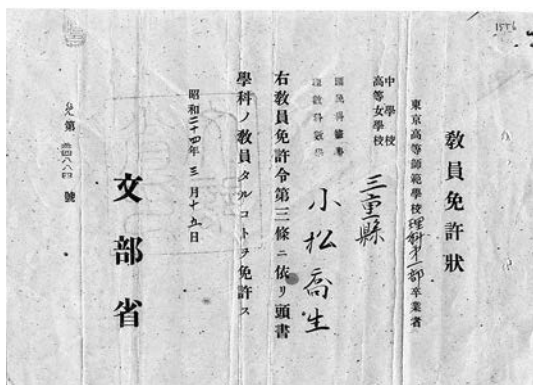
昭和20年10月、連合国総司令部は、覚書「日本教育制度一対スル管理政策」をはじめ、相次ぐ通達や指令によって、厳しく軍国主義的・国家主義的思想及び教育が排除された。不適格者の教職追放、修身・日本歴史・地理の授業停

止、従来の教科書の省略・削除及び回収・破棄、銃剣道・教練・武道の禁止などを指示するとともに、「コース・オブ・スタディ」の編集、新教科書の作成を指令した。

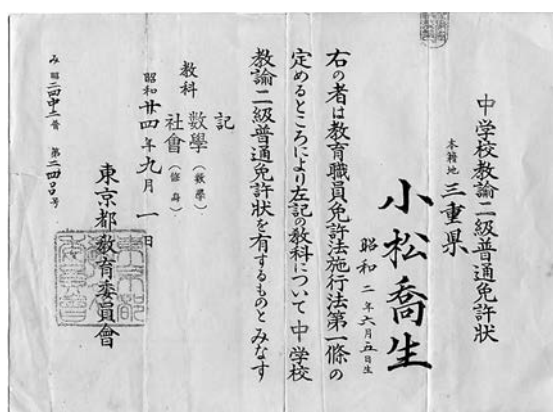
小松は「教職適格確認書」と同時に、文部教官として「三級に叙」され、辞令を受け取る。



その二週間ほど後に、小松は教員免許状を受け取っている。



左は、同じ教員免許状である。9月の日付がある。小松は、「青い山脈」の上映前後に、2枚の免許状を受け取った。



連合国軍最高司令官総司令部の占領下、アメリカ教育使節団の調査結果による報告書に基づいて教育課程の大規模な改編が行われた。昭和24年、戦後の学制改革である。新制東京教育大学が発足したのもこの年である。

昭和24年法律第一四七号「教育免許法」が施行された。附則に、この法律は、昭和24年9月1日から施行するとある。

第2条2項に、この法律で「免許管理権者」とは、…都道府県教育委員会をいうとある。

小松が9月に受領した免許状は、東京都教育委員会発行のものだが、一方、3月に受領した免許状は、文部省発行となっていた。

明治33年3月31日勅令第一三四号「教員免許令」は「朕教員免許令を裁可し茲に之を公布せしむ」に始まり、第3条には、「教員免許状は教員養成の目的を以て設置したる官立学校の卒業者又は教員検定に合格したる者に文部大臣之を授与す」と記されていた。

焼け跡から戦後教育が始まろうとしていた。小松は東京学芸大学附属校の教諭として人生を歩むこととなる。

その後、教育学部の講師を併任しながら数学教育に携わり、昭和54年に東京学芸大学教授となる。

半世紀にわたる数学教育への関りは、少年時に抱いた数学への憧れ、そして大学における学問への真摯な取り組みにその淵源はある。



左端が小松喬生。小松は国民服を着用していた。戦時中、男子は、軍服に似たカーキ色の上下の服が「国民服＝標準服」として定められ、制服を兼ねた。

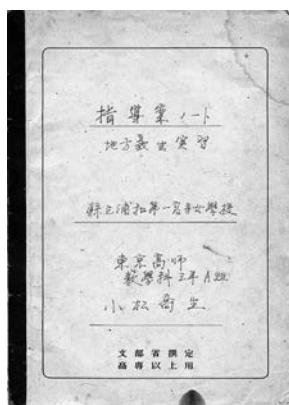
そして、知識を伝えることの重要さと難しさの前に謙虚とならざるを得なかった教育実習の体験は、若き小松に大きな影響を与えたに違いない。

古い上衣よ さようなら
淋しい夢よ さようなら
青い山脈 バラ色雲へ
あこがれの
旅の乙女に 鳥も啼く

正月明けの朝、小松は教育実習先に向かう。校門を抜け校庭に至ると、朝日に立ちこめる靄の向こうから女生徒の明るい歌声が聞こえてくる。屈託のない少女達の歌声である。いつもそうだった。

小松は教育実習時の情景を娘（富山美知子さん）に話していた。「青い山脈」の前年だが、それに近い気分がよぎる。

昭和23年の冬、実習先は、浦和第一高等女学校であった。期間は、「3学期全体、即ち1月8日から3月末日、全10週間」、実習対象は、4年生、3年生、2年生で各学年、約3週間とされた。各学年、松・竹・梅・藤の4クラスである。



実習第一日目の指導ノートである。几帳面な文字で指導内容やクラスの様子が克明に記録されている。



昭和23年1月9日（金）、4年梅組から実習授業が始まった。解析・分数函数である。目標は函数概念の養成である。

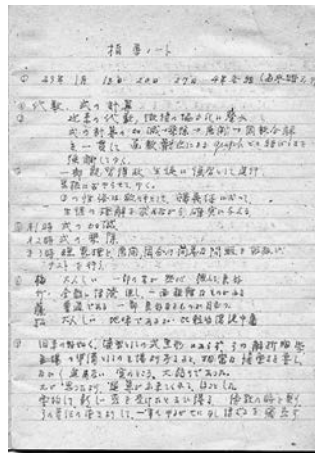
梅組 一般に大人しく、少数が活発。
竹組 全般に活発、又、よくしゃべる。
藤組 梅竹の間なり。
松組 藤竹の間なり。一般に元気。

クラスの様子を述べた後に、一週間後の感想が記されていた。

生徒は一般に真面目であり、大人しい。しかし、私の不備に対しては遠慮なく云ってくれるので気持ちよい。…私共教師の卵としては、かかる雰囲気をつ提えて、十分に新学習形態を練るに絶好である。しかし日に連れ、自己の…人間的手腕に乏しいのが目立つこと、少しゆるめれば、一人喋りになる恐れがあり、精進の要を痛感。

4年生4クラスの実習授業が始まり、並行して4年松梅組（月5・6）と4年藤竹組（水5・6）の2限連続の幾何の実習授業である。円の比例を内容とし、幾何学における論理性格を展示し、その演繹形式を問題を通して示すとする。

授業の進め方として、「重要問題は生徒とともにデイスカッション形式を用い、…」とある。



梅松 藤竹と比較して不活発で教師の専制となりやすく、随って進度も進みやすく困る：

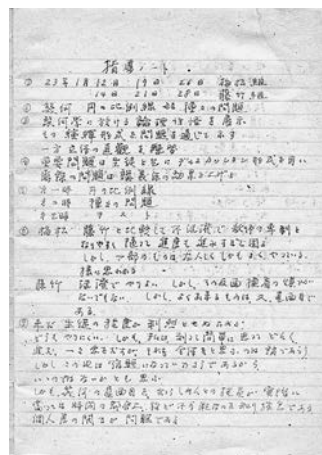
藤竹 活発でやりよい。しかしその反面、横着の嫌いが無いでもない：

未だ生徒の程度が判然とせぬためか、どうもやりにくい。しかも、私は到って簡単に思っただんどん進む。一々念をおすが、それを全体と思うのは誤りであろう。…しかも、幾何の真面目を知らしめんとする目論見が、実際に当たっては、時間の都合上殆ど不可能なのを知り、残念である。個人差の開きが問題である。

3年生の実習授業は、水曜日、1校時から4校時まで、竹藤松梅と連続する。

代数 式の計算
式の計算の加減・乗除・展開・因数分解を一貫して函数概念によるグラフの結びつき強調してゆく。

旧来の如く、演習としての式変形にあらず。その解析学の準備としての立場より考えると、相当な慎重さを要し、なかなか進めない。実のところ大弱りである。…傍観の時と異なり、己の責任の重さよりして一事もゆるがせにない得ざるを痛感す。



雨にぬれてる 焼けあとの名も無い花も ふり仰ぐ
青い山脈 かがやく嶺のなつかしさ
見れば涙が またにじむ

長い実習期間を終え、翌年、小松は学芸大附属の教諭となる。

「東京学芸大学教育実習の改善に関する研究第一集」が発行されたのは昭和

和52年のことである。その後、昭和57年の第六集まで、小松は寄稿を続けた。第一集「相関分析による教育実習の意義・目標・内容の連環的考察と評価基準設定への一考察」、第五集「事例研究に基づく教育実習の意義目標の考察と評価方法」第六集「授業観察による教育実習生の評価に関する研究」などであった。

研究集録の時期（1970年代後半から1980年代前半）は、学校教育が問われた時代といってもよい。

第一集が発行された頃は、「校内暴力・非行、いじめ」が顕在化し、「画一・つめこみ教育」からの転換が求められていた。

1975年に「全国高等学校進路指導協議会」が設立され、国立学校設置法の改正を受けて大学共通第一次学力試験の準備機関として大学入試センターが教育大駒場校舎跡に設置されたのは、1977年、この頃のことである。第六集が発行された1980年代は、学習の動機づけに重点を置く「ゆとり教育」へと動き出した時期でもあった。

父も夢みた 母も見た
旅路のはての その涯の
青い山脈 みどりの谷へ
旅をゆく
若いわれらに 鐘が鳴る

次回も、小松喬生とその時代を綴ろうと思う。資料はある。

思い出の品々の寄贈（お願い）

茗溪創基150年記念事業

「茗溪創基150年記念事業」への参加のあり方として、「思い出の品々」を寄贈していただく企画を実施しています。

1. ご寄贈いただく「思い出の品々」について

- ・「思い出の品々」につきましては、その内容の指定や限定はございません。
- ・ご提供頂く場合、「簡単な説明」等を添えていただければ幸いです。

2. 送り先

- ・電子資料は、メールにて（peer@meikei.or.jp）までお送りください。
- ・郵送先は、「茗溪会大塚事務所」宛てに願います。

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館内（電話 03-3941-0136）

教職相談窓口 一覧

筑波大学 社会連携課教職サポートルーム相談窓口（R5.4.1～R6.3.31）

2023. 4. 1 現在

名 称	姓 名	卒年	卒科・群	役職 1（茗溪会関係）	役職 2（自治体）
連携課	佐 藤 達	昭53	教大農化	会員	元/水戸市立第四中学校 校長
連携課	植 木 邦 夫	昭58	筑二人間	（教職部会員）	元/県立土浦第一高等学校 校長
連携課	田 村 和 浩	昭61	筑修教	会員	元/県立藤代高等学校 校長
連携課	高 村 祐 一	昭61	筑一人文	支部長	元/県立水戸第一高等学校・附属中学校 校長

茗溪会窓口（R5.9.1～R6.8.31）

番号	名 称	姓 名	卒年	卒科・群	役職 1（茗溪会関係）	役職 2（自治体）
1	北海道	川 口 淳	昭58	筑修教	代議員	札幌龍谷学園高等学校 校長
2	青 森	前 田 済	昭61	筑一自	支部長	青森大学 教授、前/県立青森東高校 校長
3	岩 手	高 橋 縁	昭60	筑二人間	支部長	県立盛岡視覚支援学校 校長
4	宮 城	齊 隆	昭57	筑一自	前/支部長、顧問	岩沼市教育委員会教育総務課 教育指導専門監
5	秋 田	永 井 元	昭60	筑体二農	支部長	県立秋田北高等学校 校長
6	山 形	鳥 羽 聡	平08	筑体	事務局長	県高等学校体育連盟 事務局長
7	福 島	伊 豆 幸 男	昭56	筑一自	支部長	県立福島高等学校 教諭
8	茨 城	高 村 祐 一	昭61	筑一人文	支部長	県立水戸第一高等学校・附属中学校 校長
9	栃 木	上 岡 利 夫	昭53	筑一自	元／支部長	宇都宮大学 教職センター特任教授
10	群 馬	渡 辺 昭 彦	平05	筑二比	会員	県立伊勢崎清明高等学校 校長
11	埼 玉	春 山 賢 男	昭55	筑一自	茗溪会理事	秀明大学客員教授、同教育研究所教授
12	埼 玉	田 中 邦 典	平04	筑修教	茗溪会会員	県教育局高校教育指導課 教育指導幹
13	千 葉	百 瀬 明 宏	昭55	筑一人文	支部長、理事	秀明大学 教授
14	千 葉	渡 部 徹	昭57	筑一人文	茗溪会広報委	秀明大学教育研究所 教授
15	東 京	高 橋 基 之	昭53	筑一自	支部長、理事	都教職員研修センター研修部教育開発課研修研究支援員
16	東 京	笹 のぶえ	昭56	筑二比	支部役員	大妻女子大学教職総合支援センター特任教授
17	神奈川	小 泉 いづみ	昭51	教大体	茗溪会理事	三幸学園横浜ビューティー＆ブライダル専門学校校長
18	神奈川	大 畑 多津雄	昭52	教大数	前／支部長	神奈川工科大学 教職教育センター 支援室長、支部長
19	山 梨	小 林 智	昭63	筑修教	支部長	県立清州高等学校 校長
20	長 野	志 津 亨	昭61	筑一自	支部長、代議員	県松本美須ヶ丘高等学校 校長
21	新 潟	山 下 幸 治	平08	筑芸修	事務局長	県立教育センター
22	富 山	中 村 謙 作	昭62	筑一自	支部長	県立砺波高等学校 校長
23	石 川	居 村 吉 記	平01	筑体	茗溪会会員	県教育委員会保健体育課 課長
24	福 井	牧 野 保 彦	昭63	筑一自	支部長	県立丹生高等学校 校長
25	静 岡	望 月 保 宏	昭61	筑一人文	支部長	県立沼津工業高等学校 校長
26	愛 知	蟹 江 吉 弘	昭61	筑一人文	事務局長、代議員	県立横須賀高等学校 校長
27	岐 阜	鈴 木 健	昭59	筑二生	支部長、代議員	県立岐阜北高等学校 校長
28	三 重	岡 村 芳 成	昭62	筑一自	代議員	県立桑名西高等学校 校長
29	滋 賀	藤 江 隆 史	平08	筑体	事務局長	県県教育委員会事務局 保健体育課
30	京 都	三 橋 利 彦	昭58	筑体	支部長	東稜高校初任者指導教員
31	大 阪	戸井田 克 己	昭59	筑二比	支部長、代議員	近畿大学 教授
32	兵 庫	若 浦 直 樹	昭60	筑体	支部長	県立社高等学校 校長
33	奈 良	井 上 徳 之	昭58	筑一自	事務局長	県立高田高等学校 教諭(再)
34	和歌山	岡 本 規	平05	筑体	庶務	県立海南高等学校大成校舎教頭
35	鳥 取	小 倉 建 一	昭53	筑体	支部長	元/県立八頭高等学校 校長
36	島 根	塚 田 真 也	平21	筑博数理	庶務	鳥取大学教育学部准教授
37	岡 山	中 畑 里 英	昭61	筑体	会員	県立高梁城南高等学校 校長
38	広 島	常 國 敬太郎	昭60	筑体	茗溪会会員	県立祇園北高等学校 教諭
39	山 口	藤 本 秀 夫	平05	筑修体	事務局長	宇部フロンティア大学付属香川高等学校 教諭
40	徳 島	田 北 直 樹	平05	筑体	事務局(会計)	県体育学校安全課 主任
41	香 川	槌 谷 昌 晃	昭61	筑一自	支部長	県立高松西高等学校 校長
42	愛 媛	山 下 尚 位	昭59	筑芸	支部長	県立宇和南高等学校 校長
43	高 知	田 頭 克 文	昭57	筑体	支部長	前/県立高岡高等学校 校長、県立大方高校
44	福 岡	稲 富 勉	昭61	筑体	支部長、代議員	県立香椎高等学校 校長
45	佐 賀	高 尾 和 範	平01	筑二比	会員	武雄市立武雄北中学校 校長
46	長 崎	山 口 千 樹	昭60	筑二生	支部長、代議員	県立長崎北陽台高等学校 校長
47	熊 本	寺 本 護	平08	筑体	幹事	県教育庁学校安全・安心推進課 課長補佐
48	大 分	田 崎 弘 宣	昭63	筑体	元／事務局長	県立安心院高等学校 主幹教諭
49	宮 崎	松 田 太 郎	平05	筑芸	茗溪会会員	県立宮崎商業高等学校 教頭
50	鹿児島	鹿 倉 貢	昭57	筑体	前／事務局長	(公財)鹿児島県学校給食会 理事長
51	沖 縄	三 輪 一 義	平02	筑修体	事務局長	琉球大学教育学部 教授

※「役職 1」の理事は茗溪会の理事。代議員、会員も同様。支部長は各地域組織等(支部)の長。事務局長、庶務、会計、顧問、幹事も同様。

「間違いだらけの

地球温暖化論争」

田中 博（筑波大学名誉教授）

はじめに

1976年春、私は筑波大学3期生として本学に入学し、2023年春に無事に定年退職を迎え、この度名誉教授の称号を頂きました。私の専門は大気科学ですが、昔の講座名は気候学・気象学でした。主に天気予報や気候変動の基礎となる地球流体力学の研究をしています。

1981年、地球科学研究科の大学院生の時に私は米国ミズリー大学に留学し、そこで博士(Ph.D.)の学位を得て1988年にアラスカ大学地球物理学研究所の助教として教鞭をとりました。1991年に10年ぶりに帰国して本学の地球科学系講師となり、それ以降は定年までに100名を超える卒論・修論・博論の研究指導を行い、15名の博士を世に送り出しました。

私の最終講義の演題は本稿のタイトルと同じ「間違いだらけの地球温暖化論争」でした。温暖化懐疑論とも取れるこの演題を、聞いただけでピリピリする人が大勢いて大変でした。しかし、最終講義なので研究者人生の断末魔の叫びとしてこのタイトルを選びました。講演内容は、温暖化懐疑論には間違いがあるし温暖化危機論にも間違いはある、という中立的な趣旨でまとめまし

た。温暖化の研究者が一度懐疑論者のレッテルを貼られると、その学者は国家プロジェクトから外され、論文が受理されなくなり、研究費が枯渇することになるので要注意です。最終講義の企画当初は、学内の少人数を相手に密室で開催される予定でしたが、講義は直前にオープンとなりました。すると、産経新聞の長辻記者が出席し、氏の計らいで最終講義の内容は写真入りで紙面に掲載され、全国に知れ渡ることとなりました（産経新聞 ソロモンの頭巾 2023年3月22日）。

温暖化の半分は自然変動

米国では温暖化懐疑論（共和党）と温暖化危機論（民主党）が真っ二つに分断されて対峙しています。トランプ前大統領は「地球温暖化はでっちあげ」と言い懐疑論が主流でした。それがバイデン大統領になり逆転しましたが、また今度トランプ氏がもし大統領に復帰すれば、懐疑論が主流となり、主要研究機関のトップ人事が入れ替わると予想されます。

ここで言う地球温暖化とは人為起源のCO₂等が原因で起こる温暖化と定義されます。最近では地球温暖化とは言わずに気候変動という表現にすり替えられました。気候変動という用語なら人間活動と無関係な自然変動が含まれてもいいからです。私は異常気象をもたらずブロッキング高気圧や北極振動の研究をしてきましたが、これらは力学的には自然変動です。そのため私は気候変動として温暖化していることには同意しますが、その原因の90%以上

が人為起源であるとのIPCCの説明に反論してきました。長年の研究結果から、気候変動の半分は人為起源ではなく自然変動であると考えています。

ここで言う自然変動としては、大気・海洋・海氷や植生などから成る地球システムの内部変動や、雲量の増減によるアルベド（反射率）の変化、太陽活動の長期変化などが候補に挙がりますが、未知の変動要因が将来発見されるかもしれません。つまり、人間がCO₂の排出量を抑えたとしても、今まで通り異常気象は発生し、気候変動は起こると考えています。しかし、このような仮説には納得できる明確な根拠の提示が必要です。それは簡単ではありません。気候変動の数値モデルを走らせたならそうなったという根拠はだめなのです。数値モデルの結果はあくまで仮説に過ぎず、真実の証明にはなりません。これは懐疑論にも危機論にも言えることです。以下はその根拠のひとつを提示した最新の論文の紹介です。

太陽定数は定数ではない

定年となった2023年に、現役最後の気候変動に関する論文が国際学術誌に掲載されました(Soon et al. 2023)。

世界中の研究者37名の共著論文で、私はその中の一人です。論文の結論はふたつあり、ひとつ目は、地上観測で集計される全球平均気温の上昇には都市のヒートアイランド効果が半分程度含まれているという点です。世界平均の0・89℃/100年という観測される気温の長期トレンドからヒートアイランド

の影響を差し引くと、そのトレンドは0・55℃/100年に減少します。つまりヒートアイランドの影響で62%も長期トレンドが増えているという点です。

ふたつ目は、太陽放射強度（太陽定数）は一定ではなく長期的に変化するという点です。太陽定数は定数であるかのように我々は教科書で教わりましたが、これは固定観念であり一定とは限りません。実際、教科書の数値は年々変化しています。人工衛星のデータを見ると、歴代の複数の衛星観測値に10W/m²もの平均バイアスがあるので、作業仮説としてこのバイアスを除去して長期データを結合します。すると太陽黒点の11年周期の変動が滑らかに表現される一方で、衛星観測データの長期トレンドはなくなります(図1)。これは平均バイアスがないうのと仮定したので当然ですが、真実とは限りません。人工衛星以前の時代の正確な太陽放射強度は分からないので、数値モデルでは将来予測でも過去再現実験でもこの値は一定と仮定してきました。しかし、太陽放射強度を一定とする根拠はなく、あくまで仮説であり、値は変動する可能性があります。

IPCC仮説は完全崩壊する

IPCC報告にある気候モデル予測では、太陽放射強度がほぼ一定のモデルA(図中のSolar #1)が一貫して使われてきました。よってモデルの過去1000年ランの年平均気温はほぼ一定となります。太陽放射強度は一定と仮定したのだからそれは当然であり、近年温暖化しているという観測事実はC

O₂ 放射強制力のみで調整・説明されることになります。しかし、これは仮定から導かれた当然の帰結です。数値モデルを走らせたらそうなったでは真実の証明になりません。

一方で太陽放射強度は長期的に大きく変動するというモデルB（図中のSolar #2）があります。18世紀ころの小氷期と呼ばれる寒冷期には黒点が長期間消滅した時期があり、この時の太陽放射強度は低下していたとの仮定から、太陽放射強度は大きく変動するという仮説です。このモデルBも上述のモデルAも仮説という意味では対等ですが、モデルBが気候モデル予測に使われることは残念ながらありません。この問題は決着済みとあります。

本研究では、モデルBの結果として得られる気温変動が、上記のヒートアイランド効果を差し引いた気温変動とほぼ一致することから、モデルBが正しいとの結論を主張しました。論文査読では、「IPCCではモデルAが採用されており、この論文の結果はIPCCの結果と整合的でないので不採用」との回答が一部にありました。IPCCが絶対視されています。この論文は受理すべきでないという圧力の中で、一部の好意的な査読者により本文は受理されました。

もしモデルBが正しいという本論文の結論が今後のさらなる研究で検証されれば、過去の温暖化も長周期変動も太陽放射強度の変動という自然変動で説明可能となり、CO₂の放射強制力による調整（チューニング）が不要となります。この場合はIPCC仮説の

完全崩壊を意味し、CO₂排出をネットゼロに削減しても、自然変動で起こる温暖化には何の影響もないことになります。コロナ禍の経済停滞で体験したような厳しいCO₂削減を30年続けたままでも、温暖化とは無関係となります。CO₂の排出が問題ではないとなると、石炭火力が一番安全で安いエネルギー源となります。「脱炭素は嘘だらけ」（杉山大志 2021）の主張をご一読ください。

ポリティクスに凌駕されるサイエンス

「かけがえのない地球を守る」とか、「将来を担う子供たちに環境破壊のつけを残してはいけない」といった美しすぎる謳い文句で温暖化危機論が展開され、まるで宗教のように危機感をあおり煽情的なポピュリズム一色になっています。「地球の危機を救え」とばかりに、海外ではグレタに引かれて数10万人の子供たちが温暖化阻止のデモ行進に集いました。まだ自我に目覚めてもない小学生を含む子供たちが、温暖化阻止の大合唱を繰り広げていることに疑問を感じるのは私だけでしょうか。

日本では温暖化危機論者が99%の優勢を占め、1%の懐疑論者は業界から村八分にされるのが現状です。米国の分断の比率と異なります。私は米国で学位を得ているので、両国の国民性の違いをよく知っています。最終講義で本音を話し、最後の学術論文で温暖化の将来予測は仮説にすぎないと主張しても、「いまさら懐疑論？」と一蹴されてしまい注目されることはありません。

科学的議論は既に終わっていると告げられます。これが現実です。

間違いだらけの地球温暖化論争は棚上げにし、あたかも真実に立脚しているかのように「脱炭素を達成するため」とか、「気温上昇を1.5℃以下に抑えるために」といった温暖化対策が膨大な国費を費やして推進されています。しかし、今日の政府やマスコミ、環境NGOによる脱炭素の活動は、実は仮説に過ぎない不確かなサイエンスに基づいています。温暖化研究が国家予算で推進され、NHKが恐怖心を煽る特集を組んで大衆を洗脳し、政治家は世論に基づいて地球温暖化対策推進法を成立させて脱炭素を推進し、それに従わない懐疑論を弾圧するようになりました。もはやサイエンスはポリティクスに凌駕されています。間違った法律が

できたら万事休すです。

グリーン事業やエネルギー革命の名目で、今後10年で150兆円もの投資案が国会で議決されました。今、ボールは国民に投げられています。脱炭素で石炭火力が廃止に追い込まれ、エネルギーが高騰し、再エネ賦課金で電気料金が値上げされ、それが根源の物価高で国民が苦しんでいます。自業自得と言われても仕方ありません。一方、脱炭素でほろ儲けしている人たちがいます。何が正しくて何がフェイクなのか、他人の頭でなく自分の頭で考えて判断する英知が大切です。

この紙面にこのような主張を執筆することが適当か迷いましたが、定年を機に思うところを述べさせていただきます。ご一考していただければ幸いです。

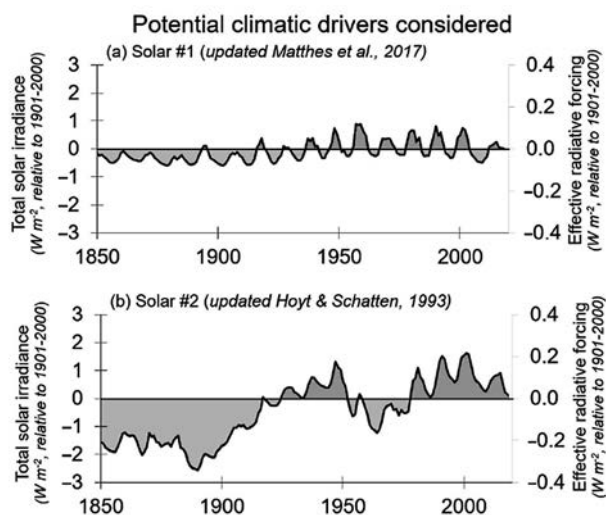


図1：太陽放射強度(W/m²)偏差の経年変化(1850-2018)。
(a)：値がほぼ一定で11年周期のあるモデルA(上のSolar #1)と、
(b)：値が長期的に自然変動するモデルB(下のSolar #2)の比較。
(Soon et al. 2023, Climate, 11 (9), 179, 2023からの引用)

元素講話とぼれ話

第三話：ポロニウムとラジウムを

発見したマリー・キュリー

大嶋 建一

「ポーランドからパリへ」

マリー・キュリー（幼少名：マリア・サロメア・スクウォドフスカ）は1867年11月7日にポーランド・ワルシャワで生まれた。マリアは幼少のころから読書が大好きで、父親の書斎にあった自然科学から歴史の本を読破した。その後、女学校にて一生懸命に勉強し、15歳で優秀な成績で卒業した。当時、ポーランドでは女性には進学の道はなく、フランスに留学したいとの希望が強かった。そのためにマリアはいくつかの家庭教師をしつつ、留学費用を貯めたとともに、フランス語を勉強した。1891年10月、マリアは念願がかなって、姉が住んでいるパリに移り住んだ。このとき、「マリア」からフランス語風に「マリ」と改名した。ソルボンヌ大学に入学し、2年後には物理学の学士課程を首席で卒業した。その後、パリ市立高等専門学校で物理学の教員であったピエール・キュリーの研究室で働く機会に出会った。二人はお互いに科学への情念を熱心に語りあい、ついには1985年7月に結婚した。

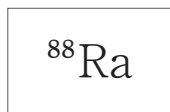
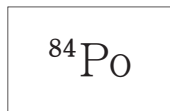
「ピエールとの共同研究」

1985年、物理学上で画期的な発見があった。ドイツの大学で放電現象の実験していたレントゲンは放電管か

ら目に見えない光線が物質を通り抜ける事を発見し、その光線をX線と名付けた。数か月後、フランス人のベクレルはウラン鉱物がX線と似た現象を見出し、ベクレル線と呼ばれた。キュリー夫妻はベクレル線を出す物質を探し始め、ピッチブレンドという鉱石からウランよりも強力なベクレル線を出すことに成功した。夫妻はその鉱石から構成元素の分離に取り掛かり84番目の元素の分離に成功した。マリーはその元素名を祖国ポーランドにちなみ、ポロニウム(Po)と名付けた。ピッチブレンド鉱石にはPoに加えて、もっと放射線の強い88番目の元素も発見し、ラテン語の「光を放つもの」にちなみ、ラジウム(Ra)と名付けた。しかし、ピッチブレンドに含まれるラジウムの量は約1千万分の1で、信頼性の高いRaを一定量確保するためには多量の原材料が必要になり、夫妻は日夜、過酷な作業に従事した。

1901年第1回のノーベル物理学賞はレントゲンが、1903年のノーベル物理学賞はキュリー夫妻とベクレルが「放射線の研究」で受賞した。その後、夫妻は研究に忙しい生活を送っていたが、1906年4月19日、ピエールはパリ市内にて馬車にひかれ、47歳にて逝去した。マリーにとっては非常に悲しい出来事があったが、二人の娘たちを育てながら研究を継続し、1908年ソルボンヌ大学にて女性で初めての教授に就任した。2011年には「ラジウム及びポロニウムの発見と

ラジウム性質およびその化合物の研究」でノーベル化学賞を単独で受賞している。

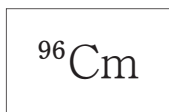


「キュリー夫人の理科教室」

1907年から1908年にかけて、マリーの発案で仲間の科学者たちは10歳前後の自分たちの子供に科学理科教室を開校し、マリーが担当したのは物理の授業であった。今世紀の初め、マリーの受講生（イザベル・シャバンス、後の化学技術者）の講義ノートが奇跡的に発見され、2003年8月フランスから発刊された。その翌年には日本語版「キュリー夫人の理科教室」（監修：吉祥瑞枝、訳者：岡田勲、渡辺正）が丸善から発行された。その目次には1. 真空と空気の違い、2. 空気の重さを実感する、3. 気圧・水道・ポンプ・アルキメデスの原理、4. 10. 気圧計をつくる、となっている。身近な自然現象を簡単な実験を用いてやさしく教えていたので、自然科学を基礎から学ぶ精神が溢れている。この受講生の中にはマリーの長女イリーヌ・ジュリオ・キュリーが含まれ、娘婿フレデリックと共に「人工放射性元素の発見」でノーベル化学賞を受賞した。キュリー家では3組のノーベル賞を受賞して、20世紀で最も優れ科学者一家である。

「その後」

第一次世界大戦中、マリーは従軍放射線技師として従軍し、X線撮影装置と発電機を自動車に搭載し、自ら自動車に乗り込んで負傷者治療に力を発揮した。しかし、終戦後研究所での生活では困窮し、アメリカ訪問時雑誌のインタビューの質問に対し、欲しいものとして1gのラジウムと答えたそうである。当時の大統領からは研究所にラジウムに寄贈があった。晩年、マリーは放射線の影響による体調不良に悩まされ、1934年7月4日66歳で死去した。マリーは女性初のノーベル賞受賞者、さらには現在まで物理学賞と化学賞の両方の受賞者はマリーのみである。キュリー夫妻の偉大なる業績から、1944年カリフォルニア大学バークレー校の研究チームが96番目の元素を人工合成した際には、その名称をキュリウム(Cm)と命名した。



参考文献…1. マリー・キュリー（フリー百科事典「ウィキペディア」）、2. キュリー夫妻とその家族（社）日本アイソトープ協会

（追記：前回のこぼれ話第二話ではニッポニウムⅡレニウムの原子番号を73と記載したが、75が正しい表示であるので訂正する。）

「筑波大学の思い出」

皆さんからの投稿から
開学50年を振り返る

筑波大学が今年で開学50周年を迎えることを記念して、茗溪会と筑波大学新聞がコラボして、筑波大学で過ごした時期の思い出に関する同窓生投稿を募集しましたところ、合計30件の投稿をいただきました。ありがとうございました。

その投稿文を、卒業年度順（1979年～2020年）に以下に公開いたします。皆さんもこの機会に在学当時を振り返っていただければ幸いです。

なお、筑波大学新聞378号（2023/9/25発行、50周年特集号）6頁にもこのうちの13件が掲載されて

います。
<https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-news/paper/pdf/378.pdf>

◆第一学群 自然学類 1979年卒

花上 克宏

①県内出身のため、寮には入れず通学時間の制約と、スポーツはレベルの高さを感じサークルに入るのは断念。学業は高校とのギャップに戸惑い、インベーダゲーム、デイスコ、麻雀、ビリヤードと気の合う仲間と何となく過ぎ去った4年間。社会人になって始めたラグビーの縁もあり、樹木が大きく育ったキャンパスを訪れる度に、学生時代にもっとやれたこともあったのではと回顧しつつ、還暦を過ぎ、同窓生の活躍を応援し、何か貢献できることがあればと思います。

馳せる毎日。
②入学してすぐにあった磐梯青年の家でのオリエンテーション。磐梯1クラスでした。ハイキングやオリエンテーションを楽しみました。個人的なメンバーが、多かったですね。まだ大の仲良しも多いし、友達の友達をたどれば、今でもみんな繋がる気がします。

◆第二学群 比較文化学類 1979年卒

穂坂 千秋

③学業不真面目だった私の思い出といえばアルバイト。当時は第2・第3学群はまだ建設途中で建物増設や道路整備工事のアルバイトが結構ありました。2～3時間の分割就労もできましたため、第2学群のトイレ工事の合間にヘルメット片手に授業を受講その後バイトに戻ったのを覚えています。同じような方私以外にも何人かいました。

ヘルメット片手に授業へ、当時の筑波大学ならではの「珍百景」でした。

◆第一学群 社会学類 1981年卒 加藤 充洋

④1977年ラグビー部に入部。練習後に平砂宿舍の風呂で新人の大仕事。そこで先輩に出くわすと、裸のまま大きな声で自己紹介しなければならぬ。「自己紹介させていただきます。神奈川県〇〇出身、〇〇です。ポジションはセンターです。よろ

しくお願いします。」その程度だが、少しでも嘔むと「もとい！」と怒鳴られ、何度もやり直しとなる。周囲の白眼と隣の女子風呂から漏れ聞こえる失笑。本当に恥ずかしかった。

◆体育専門学群 1981年卒

大石 進

⑤平砂9号棟から体芸棟へ通った日々を思い出します。中華「珍来」お腹を満たしてくれました。喫茶「らんぷ」のカレーも好きだったなあ。ハンドボール部所属、関東学生リーグ戦では、常磐線に乗り駒沢体育館・屋内球技場まで往復しました。常磐線で時々行商のおばちゃんに会い「なんだっぺよ」茨城弁飛び交う列車内、懐かしい。土浦駅も駅ビルができる前、古い駅舎（軍艦駅）にバス乗り場、のどかな昭和の時代でした。

◆第三学群 基礎工学類 1981年卒

瀧下 芳彦

⑥当時、できたばかりの一の矢宿舍には夫婦寮というのがあったという話を聞いて、地方高校を卒業したばかりの私にとっては、「そんな所に住む人がいるの？」という別世界の他人事。ところが、なんと個室が足りないという理由で、いきなりその夫婦寮に入るはめに……しかも男二人で（笑）。今振り返ると、広いスペースがあり、いろんな人が出入りしてにぎやかな交流の場になってましたね。今となつては懐かしい！

⑦キャンパス内は建物も道路も建設途中。朝、全速力での自転車通学の途

開学からの50年

西 暦	和 暦	経 過	卒 業	投 稿 年	出 来 事
1973	昭和48	0			筑波大学が開学（10/1）
1974	昭和49	1			1期生入学
1975	昭和50	2			
1976	昭和51	3			筑波大学附属病院を開設
1977	昭和52	4			
1978	昭和53	5	1		東京教育大学が開学
1979	昭和54	6	2	①～③	
1980	昭和55	7	3		
1981	昭和56	8	4	④～⑧	
1982	昭和57	9	5	⑨、⑩	
1983	昭和58	10	6	⑪、⑫	
1984	昭和59	11	7		
1985	昭和60	12	8	⑬	つくば科学博覧会
1986	昭和61	13	9		
1987	昭和62	14	10		国鉄分割民営化
1988	昭和63	15	11		
1989	昭和64/元	16	12	⑭～⑲	消費税3%
1990	平成2	17	13		
1991	平成3	18	14	⑳	
1992	平成4	19	15		
1993	平成5	20	16		
1994	平成6	21	17	㉑～㉒	
1995	平成7	22	18		阪神・淡路大震災
1996	平成8	23	19		
1997	平成9	24	20		消費税5%
1998	平成10	25	21		長野オリンピック
1999	平成11	26	22		
2000	平成12	27	23	㉓	
2001	平成13	28	24		
2002	平成14	29	25		図書館情報大学と統合
2003	平成15	30	26		
2004	平成16	31	27		国立大学法人化
2005	平成17	32	28		つくばエクスプレス開通
2006	平成18	33	29	㉔	
2007	平成19	34	30		
2008	平成20	35	31		
2009	平成21	36	32		
2010	平成22	37	33		
2011	平成23	38	34		東日本大震災
2012	平成24	39	35		
2013	平成25	40	36	㉕	
2014	平成26	41	37		消費税8%
2015	平成27	42	38		
2016	平成28	43	39		熊本地震
2017	平成29	44	40		
2018	平成30	45	41	㉖	
2019	平成31/元	46	42		消費税10%
2020	令和2	47	43	㉗	
2021	令和3	48	44		東京オリンピック
2022	令和4	49	45		
2023	令和5	50	46		筑波大学開学50周年

中、まだ未舗装の道に差しかったところすべり、泥道に思いっきりダイビング。見事なほどの全身泥だらけ……もう寮に戻る時間もない。このまま帰ってしまおうか？ でも、この授業の単位取得は微妙。しかたなく恥を忍んでそのまま教室内へ。ちよつと間をおき、苦笑から大爆笑へ。特に先生には大ウケ。その熱意(?)が通じたのか、その単位は見事ゲット！

◆医学専門学群 1981年卒

山下 共行

⑧大学時代の思い出といえば土浦での下宿生活。ここにはいろんな理由で学生寮に入らなかった同じ2期生の男が12名。下宿の親父さんと娘2人は土浦の繁華街で飲み屋を経営し、僕らはここでただ酒をなんどもご馳走になった。年1回の下宿旅行もあり費用もおかた親父さんがだした。卒業して40年以上下宿の宴会は継続中。親父さんは90歳以上で約10年前に亡くなったが、娘さん2人は下宿旅行宴会に来ていた。この思い出は一生の財産だ。

◆第三学群 社会工学類 1982年卒

高石 健太郎

⑨ヨット部の私は毎年夏休みに館山北条寮で20日間程度の合宿をしています。そこでは寮長の津田さんご夫婦が、日常生活すべてをサポートしてくれました。食事の準備ができる『ヨットー、メシー、降りてこーい』というおじさんの元気な声が寮全体に流れ、腹べこの我々は急いで食堂に集まり、すごいスピードで残

さずかきこみました。食べ盛りの我々のために、常にたくさんのごはんを用意してくれていました。いつも隣のテーブルに座り『もつと食べろー』と笑顔で声かけてくれました。カレーや炊き込みごはんの味は忘れません。また日常の生活態度にも厳しく、トイレ、玄関等を汚しよく怒られました。おばさんは、いつも穏やかで、食事当番で食器洗っているといつも『いつも食事当番で大変ねー！』と気にかけてくれました。ご夫婦のおかげで我々は楽しく充実した合宿ができました。おじさん、おばさん、ありがとうございました。

◆第二学群 人間学類 1982年卒

匿名希望

⑩体育会系の新歓コンパでしこたま飲まされて、最後は松見公園の池で水浴び。今なら未成年飲酒その他諸々の違反で完全にアウトですよね。昔は良かったと懐かしむのは、認識ズレも甚だしいこと重々承知のうえの懺悔です。

◆第一学群 自然学類 1983年卒

河野 一嗣

⑪ラティーゴの正面にあった源八(焼鳥屋)。僕の人生の一部です。壁一面に学生達が書いた色紙。体育会の部が日替りでバイトに入り、僕は土曜担当。社会人客はお断り。大将・ママさん・バイト連中と温泉にも行っただけ。厚揚げの焼き方も上手になりました(カバ)

⑫5周年記念で体育会向けLiveコンサートやろうと、社会人OBや飲

み屋さんに資金集めで奔走。お陰でビジネス手帳の使い方をマスターでき、就活に役立ちました(企業から金もらって「紫峯」誌に広告出すのか！と文サ連合から批判されたのも良き思い出)

◆第一学群 人文学類 1985年卒

沼尻 浩司

⑬それはまだ図書館情報大学が筑波大と一つになる前のこと。ある夏の日、平砂共用棟の風呂が使用できず友人と二人で図書館情報大宿舎の風呂場に潜入した。最初は適当に話を合わせ図書館情報大の学生たちに交じって和気あいあいと一緒に風呂に入っていたが、その内だんだん話の辻褄が合わなくなり、ついに身元がバレてしまいい転倒悪寒霧開きに。これはまずいと、慌てて着の身着のまま平砂宿舎まで逃げ帰った。

◆第一学群 自然学類 1989年卒、修士課程 理工学研究科 1991年修了

匿名希望

⑭入学した1985年は、めでたくも科学万博つくば博の開催年。夕方5時を過ぎると入場料が半額になるので、講義を終えてからしよっちゅうパビリオンに遊びに行った。もちろん、会場までは平砂からチャリで！結構距離あったはずなんだが、当時は何とも思わなかった。ただただ楽しいんだなあ！

⑮平砂宿舎では、1フロアに6人住んでいましたが、そのうちの1人がタイからの留学生でした。6人でたった1台のガスコンロしかないのに、

その留学生は何時間もかけて、しかも香辛料の強い何やらエスニック料理を作っていました。そのうち彼氏も連れ込んできたし(笑)。いい人だったんだけど、やっぱりカルチャーの違いを感じた一場面です。国際色豊かな筑波大学ならではの経験。

⑯入学当初、当時はまだ携帯もスマホもなかった時代。平砂宿舎の前には公衆電話が1台あり、日曜日の夜になると必ず行列ができていた。そりゃ、みんな親元に電話するよね。でも長いんだ、これが！みんな待ってんだから、早くしろ(笑)！

⑰宿舍共用棟のお風呂が夜9時までで、部活を終えて帰ってくると間に合わない。いつも5分前とか10分前とかに駆け込むもんだから、管理人のおじさんに睨まれていた。

⑱1学の前の松見池の横の坂道を、よく自転車で2人乗りをして駆け上っていた。当時は普通にやっていたことなんだが、今ではよくそんな体力があったなあと思う(笑)。

⑲期末試験の後、ご褒美にシェーキーズの食べ放題に友達と行くのを楽しみにしていたのだが、あのかいピザのピースとポテトをいくらでも食べた！食べても食べてもいくらでも食べられた。美味しくて、楽しかった。今でも筑波にシェーキーズがあるかどうかは知らないが、50代となった今、たぶんピザもポテトも2ピース食べれば充分だろう(笑)。

⑳入学当時、女の子が筑波大学へ行くのと、3人になって帰ってくる(笑)と言われて、それが気に食わなくて、1人で帰ってきたのはいいが、その

せいとかどうか知らんが、卒業して何十年も経った今でも未だ独身(笑)。

◆他大学 経済学科1991年卒、
博士課程 ビジネス科学研究科
2003年修了 合田 浩之

②1 会社の業務を切り上げて、茗荷谷に急ぐ日々。六月の夏至の頃は忘れ難い。夜間大学院なのに未だ明るいうちに、学び舎に辿り着けるから。▽あの頃は、茗溪筑波グラウンドフェスティバルというイベントがあった。そこで当時、筑波本校の院生だった女性と出会った。程なくして結婚した。▽博士の学位記を懂れの本校で授与された。

◆第三学群 基礎工学類 1994年卒
竹内 晃久

②2 91年度一の矢4-505に住まわれていた女性の方。あのときは本当に本当にごめんなさい！ 勝手知った男友人の部屋にいつものようにノックもせず上がり込み、部屋奥のこたつに潜り込む。こたつから改めて見渡した部屋の違和感とあなたの恐れ慄く顔を見るまで、ここは5-505の勝手知った友人宅ではなく隣の棟だったことに全く気がついてませんでした。謝罪の言葉も碌に出ないまま逃げるように退出しました。

②3 忘れられない味といえばこれしかない。とんかつ太郎A定食大盛60円。カツが絶品なのはもちろん、学生への挑戦的な量の千切りキャベツ、ほんのり出汁が効いたポテサラ、そしてあさり汁。ソースをかけるのが多数派のようでしたが、僕はキャベツ

含め全体にレモンを搾り、醬油をたらして食べるのがオススメ。揚げたての衣に染みたレモン汁と醬油の香ばしさがあまもうたまんね。

◆第二学群 人間学類 1994年卒
川本 耕司

②4 宿舍のオアシス、平砂共用棟(きょうようとう)ね。誰だ「きょうようれん」って読んでたヤツは。ホントに合格したのか？の朝ごはん、納豆卵定食。略してナツタマ定食。200円くらいだったつけ。貴重な栄養源だった。大きな寸胴の味噌汁をかき混ぜ、玉ねぎやキャベツの野菜をできるだけ多く取るうと頑張ったり、同級生がバイトしてたりするとご飯少し多めにもらったりして。今でも納豆卵ご飯を食べると、当時の平砂共用棟の食堂、朝の冷んやりとした空気を思い出す。

②5 バイトと言えば、当時西大通り沿いにあった「桜井ホテル」の朝食バイト、6時半から8時まで。ホテルの食堂に入り、まずはコーヒー作ってテールセット、お客さんが来ると和食ならご飯と味噌汁準備して、洋食ならコーヒー渡し、焼けたパンを持っていく。バイトが終わるとアジの開きで朝ごはんかき込み帰宅し大学へ。夏はともかく冬の6時半は厳しい寒さ、車のフロントガラスも凍り付き、溶かす時間もどかしく、うつすら見える部分だけで西大通りをつら飛ぶ。今ではとても考えられぬ。よく4年間続いたなあ。一緒に働いた図情大の先輩方、お元氣でしようか。

◆第二学群 日本語・日本文化学類
2000年卒 野崎 芳恵

②6 大学1年の必修の体育。先輩たちから「楽だよ」といわれた科目が取れず、陸上をやることに。当然走らんだろうなと少々憂鬱に思っていたところ、始まったのは棒高跳び。予想外の種目でとても楽しく、棒高跳びを満喫しました。陸上を楽しんでもらいたいという先生の気持ちが伝わるとともに、専門の先生に教わるというのがなんてゼいたくなんだ！これが大学か！と思った思い出。現役学生の皆さんも、卒業後は専門の先生にスポーツを指導していただく機会はほばないので、体育の授業を存分に楽しんでください。

◆第一学群 人文学類 2006年卒、
人文社会科学研究科 2012年退学
匿名希望

②7 大学構内を犬が歩いているのをよく見かけました(多分野良犬で、誰かが「副学長」というあだ名をつけているのを聞きました)。大学1年の頃、1限に出席するため朝早く一人でペダストリアンデッキを歩いていたところ、後ろからその「副学長」が追いかけてくる！大学会館から第一学群棟までずっと追いかけられ、講義棟に駆け込みました。今でも「副学長に追いかけられた」という言葉だけ思い出すとふふっと笑ってしまいます。

◆人間学群 心理学類 2013年卒
千手 禅二郎

②8 ママチャリで茨城から福岡へ。大学

生活では、「やってみる」を大事にしました。その一つが、寝袋を持ってママチャリで実家の福岡まで帰ること。観光する余裕もなく、とにかくチャリをこぐ毎日。10日ちよつとで着きましたが、食費を考えると飛行機の方が安いという結果に。その他、サークル5個、大学3年からバンド、誘われて宗教の合宿に参加、マック100個、歌舞伎町のホストに面接に行くなど、とにかく手を出してましたね。

◆社会国際学群 2018年卒
高木 良奈

②9 WINSの合宿で当てた素麺流し機で、WINS仲間と素麺パーティーして狭い1Kの部屋でとりとめのない話をしたこと。とりあえずWINSの活動全部が楽しすぎた。わたしの青春です！

◆人文・文化学群 比較文化学類
2020年卒 竹田 翼

③0 大学1年生の夏のこと。1人暮らしにも慣れはじめ、バイトにサークル、友達付き合ひ、彼女との半同棲生活に現を抜かし、入学当初の高い志はどこへやら、立派にモラトリアム生活謳歌していました。挙句の果てには授業を受けるか受けないか、友達とジャンケンで決めるようになり、新しい環境に馴染めず不登校になった。山口先生、その節はすみませんでした。

茗溪・東西南北

令和5年度茗溪会富山支部総会

茗溪会富山支部は、7月2日(日)に、本部から新井達郎理事をお迎えし、富山電気ビルディングにて支部総会を行いました。

総会では、まず新井理事からご挨拶をいただき、本部の活動について伺いました。続いて代議員報告、会務・会



計報告、そして今年度の支部役員の体制が承認され、支部活性化に向けての取り組みを話し合いました。

引き続き行った懇親会では、総会での新井理事から大学の様子を伺ったことを受け、学生時代の思い出や懐かしいエピソードを語り合い、世代の違いを比べて笑いが起きる場面もありました。また教育関係者が多かったためか、教育について近況報告や職場での悩みなどを語り合い、先輩方から教えをいただき励ましていただいたことも、大変ありがたく貴重な場となりました。おいしいお酒もあつて、終始和やかな会となりました。懇親会の最後は全員で肩を組み、声高らかに「宣揚歌」を歌い、同窓の思いを一層強くして、会員相互の親睦を深めました。

令和5年度山形県茗溪会総会

令和5年11月25日(土)、ホテルキャッスル山形において令和5年度茗溪会山形県支部総会及び懇親会が開催されました。令和元年度以来、4年ぶりの総会、懇親会となり、県内会員20名のご出席を得ました。

総会では、この4年の間にご逝去なされた会員への黙祷に始まり、10年間の長きにわたって支部長を務められた津田浩氏(S58筑一自)、令和5年春の叙勲において瑞宝中綬章を受章された原慶明氏(S48教博植)に花束贈呈が行われ、新支部長には石山宣浩氏(S62筑二比)が選出されました。

また、今回は茗溪会本部から常務理事の矢野正人様(S53教修農)をお迎えし、「桐の葉のこと 伝承と創造」と題して、茗溪愛に溢れた熱いご講話をいただきました。茗溪の歴史と伝統について、あらためて知ることが多く、会員一同大変興味深く拝聴させていただきました。

懇親会では、最年長出席者である金村勲氏(S39教大体)の音頭で乾杯した後、恒例の自己紹介及び近況報告が行われました。退職された会員から、海外旅行で充実した時間を過ごされている話、趣味の店へ出勤されている話、大塚の占春園を訪れた話など、ユーモアに溢れた話が多く聞かれました。また、ご子息や教え子が筑波大学へ進学した話など筑波にゆかりのある話も聞きすることができました。大変盛り上がり、予定していた時間を大きく超えてしまい、幹事は気をもんでおりましたが、楽しい時間を過ごすことができました。最後は出席者一同肩を組んで桐の葉を高歌し、小原正隆氏(S40教大体)の中締め挨拶によって、3時間半にわたった総会及び懇親会が終了いたしました。

今回の総会は、20名の出席を得ましたが、毎回出席者の確保が大きな課題となっており、出欠ハガキの返信のない会員も多く、電話連絡によってお誘いしたり、出席をお願いしたりする状況にあります。また、他の支部でも同様の傾向にあると思いますが、出席者のほとんどが教職関係者で占められていることから、他の職種の会員が参加



に二の足を踏む状況もあるのではないかと思います。そのため、支部が身近な存在として認識していただけるよう、事務局ではここ数年、メールによる情報発信に取り組み、会員の様々な取り組みや活躍をお知らせしています。少しずつではありますがアドレスの把握が進み、会員の約3分の1のアドレスを把握することができました。これまで面識のなかった方から事務局へ返信いただくこともあり、今後はメールによる情報発信をさらに活発にすることによって、会員相互の繋がりが深まっていくことを期待しております。

(文責：鳥羽 聡 H9筑体)

追 悼 録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・地域・
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

加藤 秀夫	22理一	愛知	R5.10. 4	妻	加藤美年子	上田 統雄	34教大法政	兵庫	R5.10.17	妻	上田 真子
神山 昌也	23文二	東京	R5.10.31	妻	神山 厚子	池田 昂	35教大心	神奈川	R5. 6.13	長女	日下部香苗
浅川 浩二	24文四	東京	R5. 2.20	妻	浅川 和子	佐々木純一	35教大植	埼玉	R5. 2.24	妻	佐々木セツ子
富田 佳行	24理一	山梨	R5. 9.26	妻	富田 淑子	松崎 吉照	35教大専攻	神奈川	R5. 6.11	妻	松崎百合子
松永 幸夫	25理一	神奈川	R5. 5.13	長男	松永 順一	村山 和永	36教大物	神奈川	R5. 7.13	妻	村山 孝子
宮本 昇	27研	東京	R5.10.12	長女	宮本 直美	中澤 一男	38教大健	埼玉	R4. 3.13	妻	中澤 睦子
石橋 文雄	27農教	神奈川	R5.10. 4	妻	石橋喜美代	高城 丈夫	38教大数	茨城	R5. 9. 2	妻	高城 愛子
若林 一民	30教大農	静岡	R5. 7. 4	妻	若林 智子	東浦 舶夫	42院修林	神奈川	R4. 1.25	弟	東浦 成男
吉川 正美	30教大農経	東京	R5. 9. 4	長男	吉川 正信	高田喜久司	46院修教	新潟	R5. 2.24	長女	高田 啓子
北橋 秀夫	31教大農化	千葉	R5.12. 4	妻	北橋 芳枝	林 憲二	46教大経	広島	R5. 8. 9	妻	林 由理
崎田 功	32教大数	東京	R5. 9. 3	妻	崎田美智子	清水 博之	46教大生化工	東京	R5. 7. 8	姉	清水 勝子
高村 守夫	32教大数	東京	R4. 1.19	妻	高村 洋子	新橋 浩	50教大英	茨城	R5. 9. 6	妻	新橋 弘子
石坂 和夫	33教大農工	神奈川	R5. 6. 7	妻	石坂千代子	中弥 貴晴	51院修農化	神奈川	R5. 9.28	妻	中弥美恵子
三沢 治	34教大農工	北海道	R5. 2.23	妻	三沢慰久子	船越 尚哉	12筑博医	茨城	R4. 7. 2	長男	船越 尚樹
板倉 正幸	34教大物	東京	R5.10.12	長女	板倉 由美	高橋 和清	25筑修 ビジ法曹	東京	R5. 9.13	子	高橋 和也

桐の葉のつどい

同期入学、または同好のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆第3回昭和46年卒業東京教育大学体育学部健康教育学科生同期会報告

と き 令和5年9月28日(木)

ところ 名鉄グランドホテル・涵梅舫

今回は19名が出席し3名が初参加でした。ホットニュースは星 憲君が叙勲の栄誉を受けられ、百鬼史訓君が先日剣道8段に昇段されたことでした。同期会は、美味しい中華料理を食べながら、近況報告や熱い心の籠ったスピーチが披露され、久々の再会を喜び合いながら懐かしく楽しい一時を過ごすことができました。約2時間の同期会のメは全員で宣揚歌を合唱し“関東一本締め”でお開きとなりました。二次会は、全員がラウンジコーヒーを飲みながら歓談し、名残りを惜しみながらも再開を約束して閉会となりました。次回は、2年後に九州・熊本(幹事:野口慎一郎君)での第4回目の同期会開催を予定しております。より多くの同期生が元気に参加できるよう祈念しております。

(文責 幹事:松浦 滋)



◆筑波大学剣道部1期生の会(剣翔会)

と き 令和5年9月30日(土)

ところ 筑波大学剣道場ならびにホテル日航つくば

筑波大学創設50周年に合わせた今年の剣翔会には総勢25名(内2名が故人)中18名が参加、筑波大学剣道場にて在学中より剣道指導をいただいている佐藤成明先生(85歳)より、稽古をつけていただき、稽古後、先生よりさらにご指導をいただきました。その後、会場をホテル日航つくばに移し懇親会を実施しました。

(木原資裕)



筑波大学は今

**UNHCR国連難民高等弁務官
フィリップ・グランディ氏の学長
表敬並び学生との交流会を開催**

10月20日、第11代国連難民高等弁務官フィリップ・グランディ氏が、インドリカ・ラトワッテ同事務所アジア太平洋局長、伊藤駐日代表及び五十嵐つくば市長とともに本学を訪問され、永田学長らと懇談されました。

グランディ氏から、国連難民高等弁務官事務所の活動について説明の後、日本の難民受入れに当たった課題等について意見交換が行われました。

学長表敬に続いて、グランディ氏と本学学生との意見交換会が開催され、日本人16名を含む15ヶ国・計44名の学生が出席しました。

難民間

題について、現役の国連難民高等弁務官と直接に對話できたことは、本学の学生にとって深い学びの機会となりました。



学長と学生との交流会(学群)を開催

10月26日、学長と学生との交流会(学群)を開催しました。この交流会は、学長と学生の交流の場として毎年度開催しているものです。

対話集会は、竹中学長補佐室長の進行のもと、永田学長や副学長、各学類・専門学群、総合学域群及び英語プログラムから58名の学生が参加して行われました。事前に学生から話題を募り、国際性と多様性や、今後の学群教育の組織の在り方など4つのカテゴリで、永田学長と学生との間で活発な意見交換が行われました。また、対話集会終了後には、立食形式での懇談会を実施し、学長や副学長等を囲み和やかに話す姿が見られました。



第49回筑波大学学園祭「雙峰祭」を開催

11月3日～5日に、第49回筑波大学学園祭「雙峰祭」が開催されました。前年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、入場者数を制限し、企画は屋内のみで開催しましたが、本

年度は4年ぶりにコロナ禍以前の規模での開催となりました。

11月3日、前夜祭を屋外特設ステージで開催し、式典には学長をはじめ副学長やご来賓の方々にご出席いただきました。その後、学生によるパフォーマンスショーが行われ、大いに盛り上がる中、第49回雙峰祭が開幕しました。本祭では、230もの企画が実施され、学生たちは日頃の研究や課外活動の成果を様々な形で、活き活きと表現していました。屋外特設ステージでのパフォーマンスは生配信され、来場者のみならず、ご来場いただけなかった方々へも広く発信されました。

最終日の後夜祭では、本学附属病院に入院中の子供たちが描いた絵をイメージした創作花火が夜空を飾り、3日間の雙峰祭を締めくくりました。

学園祭期間中は、天気にも恵まれ、学外からも多くの方が来場され、今年の学園祭テーマ「開花」にふさわしい笑顔、満開の、大盛況の雙峰祭となりました。



6度目のPRIDE指標GOLDを受賞

11月7日に開催された「work with Pride 2023」にて、LGBTQ+に関する取組について、本学が「PRIDE指標2023」のGOLDを受賞しました。本学での学生・教職員への継続的な取組が評価され、受賞へとつながりました。

PRIDE指標は2016年に、職場におけるLGBTQ+などの性的マイノリティへの取組の日本発の評価指標として、一般社団法人work with Prideにより策定されました。LGBTQ+の人々が誇りをもって働ける職場の実現を目指して指標の名称を「PRIDE指標」とし、「企業・団体等の枠組みを超えてLGBTQ+が働きやすい職場づくりを日本で実現する」ために、5つの領域において取り組みを評価するものです。本学の取組は、全ての指標の評価を満たしたため、GOLDを受賞しました。

本学は、建学の理念である「開かれた大学」を掲げ、様々な属性を持った多様な人材の活躍こそがイノベーションの創出の源泉であると強く認識しており、今後も引き続きLGBTQ+を含むダイバーシティ推進に取り組んでいきます。



茗溪学園だより

「さくらサイエンス」交流

科学技術振興機構が行っているハイスクールプログラムで、海外高校生99名（他に引率などの関係者27名）が、12月13日に来校しました。インド、中国、エジプト、ケニヤ、南アフリカから来日した高校生で、1週間のプログラムの一環として、本校訪問・交流が組み込まれました。

当日午前10時に到着、歓迎セレモニーが行われました。本校からはIB課程の生徒や帰国生など80名が参加しました。交流会場内で、一緒にランチを摂った後、10グループ（10会場）に分かれてアクティビティやワークショップ等が行われました。活動内容は、理科（物理、化学、生物）の実験、経済、心理、文化などをテーマにした討論、書道体験などでした。

午後2時過ぎからは、梶田隆章先生（ノーベル物理学賞受賞者）の講演会（英語による）でした。梶田先生の講演テーマは、「Looking back on my research at Kamioka-Neutrinos and Gravitational Waves」で、本校生約700



来校されたスタッフの皆さんと



書道体験

名も参加させていただきました。その後、記念撮影、お別れセレモニーと円滑に進み、午後4時過ぎ帰途につきました。

百名を超える大人数をお迎えするイベントでしたが、用意した活動内容に対し、とても良い交流となりましたと感謝の言葉もいただきました。また、インド、アフリカの高校生との交流は過去にあまりなかったことだったので、世界の広がりを学ぶ良い機会となりました。



講演会の後、全員で記念撮影

「個人課題研究」学内発表会

創立以来進路指導の目玉としてきた「個人課題研究」の学内発表会（が、12月19、20日の両日、開催されました。1年間の研究成果を、パワーポイントに凝縮させての口頭発表です。発表時間は質疑の時間も含めて一人15分、IB課程の生徒を除く高校2年生全員234名が発表しました。

発表を聞くのは、これから研究が始まる高校1年生。分野別に会場割りが行われているので、関心のある研究テーマの会場に行つて発表を聞きます。会場ごとに座長の先生がつき、会場の生徒（自己評価を含む）と座長の先生の評価点が、3月に公開で行われる優秀研究発表会の代表発表者選考の参考点になります。

台湾・嘉義高級中学交流

台湾の交流提携校「嘉義高級中学」から31名の高校生が、12月17日から4日間来校（宿泊は本校学寮）しました。受け入れに当たっては、3月に台湾で行われた「台湾模擬国連」に本校生が参加した際に、同校生徒との交流を深めた生徒達が担当しました。また、台湾から本校に留学中の生徒5名も寮生活なども含めてサポーター役を果たしました。

個人課題研究発表会では、嘉義高の生徒達の研究発表（英語による発表）が行われました。他に、授業に参加したり日本文化体験（茶道など）や部活体験などの交流活動が行われました。

高校2年海外研修：シンガポール

高校2年生の行事、海外研修が、10月に4泊6日の日程で行われました。コロナ禍を経て4年ぶりの開催でした。MGコース（通常授業のクラス）生徒もIB（国際バカロレア）生徒も、研修地をオーストラリアからシンガポール

に変更し、班別での日系企業訪問、現地大学生との学術交流・街中散策を柱とする研修でした。企業訪問は、保護者に協力を依頼して実現しましたが、生徒が最も印象に残る活動に選ぶほど充実したものになりました。さらにIB課程の生徒は姉妹校であるSt. Joseph's Institutionでの交流や南洋大学にて哲学の授業を受講することもできました。

中学3年国内研修：ACクラスはタイ国

中学3年の研修は、11月下旬〜12月にかけて、MGコースが沖縄（広島京都から変更）、AC（アカデミアクラス）コースはタイ国での活動を行いました。MG生は、戦中戦後に加え現在も大きな動きの渦中にある平和学習を柱に、自然体験も加えた研修を行いました。AC生は、姉妹校のパトゥムワン、プラーサミット、チュラロンコン三校との交流やホームステイを柱とし、現地高校生との意見交換を主な目的とした大変意義ある研修を行うことができました。

部活動報告（試合結果など）

◎**高校ラグビー部**：全国大会出場（12年連続29回目）Bシード校となり12月30日初戦。東大阪市花園ラグビー場にて

◎**中学ラグビー部**：第43回東日本大会3位（準決勝は中学3年研修旅行中のため出場できず中2部員が出場し善戦）、第29回全国ジュニアラグビー大会出場（年末、東京）

◎**高校バドミントン部**：県新人大会・男団優勝／女団準優勝／男単優勝・準優勝／女単準優勝／男複準優勝／女複優勝、男団体・男女単各2名・男女複全国選抜大会出場（3月滋賀県開催）、関東大会（神奈川県開催）結果・男複準優勝／男単ベスト8／女複準優勝（以上全国選抜大会出場）

◎**高校体操部**：県新人大会・男団準優勝／女団優勝／個人総合男優勝・女優勝全国選抜大会出場（3月埼玉県）（女子個人総合は3位まで茗溪独占）

◎**中学体操部**：県新人・男団準優勝／女団優勝／個人総合女準優勝

◎**中学テニス部**：全国選抜大会出場（3月・香川県）

◎**科学部生物班（高校2年3名の研究）**：科学技術チャレンジ（JSEC 2023）最終選考／優秀賞受賞／テーマ「ランタナの花色変化の仕組みとその理由」

◎**中学演劇部**：関東大会出場（3月・神奈川県）

◎**ボランティア同好会**：第27回ボランティア・スピリット・アワード「コミュニティ賞」受賞（3年連続）

令和5年秋の叙勲

おめでとうございます(敬称略)

瑞宝中綬章

大橋 美勝

41教大体

45院修体

(岡山)

瑞宝小綬章

野津 寿一

38教大漢

36教大農

(北海道)

星田 宗良

47教大教

47教大教

(栃木)

大保木道子

51教大物

51教大物

(埼玉)

金子 光明

51教大体

51教大体

(埼玉)

小泉いづみ

49教大体

49教大体

(神奈川)

久下 恭功

52教大経

52教大経

(石川)

杉本 淳光

51教大農

51教大農

(静岡)

瑞宝双光章

洪谷 義仁

51教大農

51教大農

(青森)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

【柴田育英会だより】

去る2023年10月15日(日)昼に、茗溪会館において2019年以来となる、奨学生と役員の方々の直接の交流を目的とした2023年度「奨学生懇談育成会」が開催されました。

理事他役員が10名、奨学生OBが1名、4大学の奨学生6名の参加で、会食をしながらの奨学生の自己紹介および近況報告、役員および奨学生OBの話などで交流を深めました。

今回は奨学生8名のうち2名が体調不良等で欠席しましたが、来年度はより多くの参加者で開催できればと考えています。

広報

筑波大学主催《第38回教職研修会》

月 日…令和6年2月3日(土)、4日(日)

会 場…筑波大学体芸棟4F

対 象…筑波大学の学群生及び大学院生

講 師…高橋 基之氏

百瀬 明宏氏

春山 賢男氏

佐藤 達氏

田村 和浩氏

内 容…2月3日(土)

開講式

講義、論文文

受験体験談

演習、個人面接

演習、集団面接・討論

2月4日(日)

演習、個人面接

講義、模擬授業解説

演習、個人面接

演習、集団面接・討論

事務連絡

※詳細は茗溪会ホームページを参照してください。

表紙写真について

(広報委員 鈴木一弘)

筑波大学の北西約19kmにある母子島遊水池(筑西市)では、毎年10月下旬と2月中旬の2回、朝日が筑波山頂から顔を出すダイヤモンド筑波を見ることが出来ます。

2月の快晴無風の朝、寒靄立つ水面に山影を映すその姿は、神々しさを感じさせます。

編集後記

今年の6月から8月にかけて多くの茗溪会地域組織の総会が開催されましたが、10月以降も各地で地域総会が開催されました。本号のグラビアではそれらの様子をまとめてみました。また11月3日には恒例の「追悼のつどい」が開催されましたが、報告記事は次号の1120・春号を予定しています。12月9日には待望の「茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会」が開催され、「謹賀新年」でも「茗溪の士業者」に原稿をお願いしました。

筑波大学開学50周年を記念して「筑波大学の思い出」と題して筑波大学の卒業生の思い出投稿を記事としてみました。

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

令和6年1月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一〇一三七四

E-mail info@mekei.or.jp

URL http://www.mekei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-877 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九一八五〇一〇四四

FAX 〇二九一八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@mekei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

— 筑波大学の知の発信 —
筑波大学出版会

ようこそ、
**山岳と大気が
おりなす世界へ**

上野 健一 著

Coming soon

ヒマラヤ・チベット・日本の中部山岳域を舞台に、
山岳域特有の天気とどのように生じるのかを、
大気陸面相互作用からわかりやすく解説。

ISBN 978-4-904074-80-0 (紙版) C1044

A5 判並製 112 頁 紙版・電子版 令和 6 年 3 月刊行予定

**東アジア冷戦文化の
系譜学**——一九四五を境として

渡吉 橋 齋 越 博
辺 原 本 藤 智
直 ゆ 恭 一 博
紀 か 子 美
編

冷戦という＜戦争＞において、文化を武器とした情報戦はいかに政治的・文化的・社会的機能を果たしたのか、東アジアを中心に考察する。

ISBN 978-4-904074-78-7 (紙版) C3090

A5 判並製 478 頁 紙版・電子版 令和 6 年 4 月刊行予定



刊行予定

もっと知りたい！
「科学の芽」の世界

PART 9

「科学の芽」賞実行委員会 編

(令和 6 年 6 月刊行予定)

販売・丸善出版

株式会社 阿部兄弟建築事務所
平成28年度東京ワークライフバランス認定企業

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル

代表取締役 荒井 豊人(昭和57筑基工)

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120



株式会社 十和観光

URL <http://www.juwa.com> E-mail travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297 (52) 1221 FAX 0297 (52) 1220

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 **ケエスアイ**

本 社 〒557-0063
大阪市西成区南津守7-15-16

TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」
TSUKUBA WAY プロジェクト
～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ

代表取締役 藤田 文武 (体育専門学郡
2004年卒)

株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号

電話 03(3456)4501

取締役副社長執行役員 植岡 祥之(昭57筑社工)

広告募集

集めるのは「知識」と「技術」
さまざまなモノや思想を“寄せ集め”
教育の世界が求めるウオントを形にする会社

PiCK & MiX

Keeping Up Innovation with Integrating
Art & Technology

株式会社ピックアンドミックス 代表取締役 松村直樹

<https://www.pickandmix.co.jp/>

FXC
Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>

当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・
製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。

創業者：代表取締役社長執行役員 谷輪 重之(93筑修経営)

筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション！

新・教職課程演習
全 22 巻

筑波大学人間系教授 清水美恵 監修
広島大学大学院教授 小山正孝

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位(大学院)プログラムと、
広島大学大学院人間社会科学研究所(旧大学院教育学研究科)の専任教員が編者として
初めて協力の画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5 判・並製
定価：1,650 円～2,640 円(税込)



協同出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5
TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp>

「新・教職課程演習」全 22 巻

創基151年筑波大学開学50周年記念事業

創基百五十一年筑波大学五十年史 図説編

筑波大学50年史編纂委員会 編

2023年10月刊行

明治5年の師範学校設置に始まる本学前身校の歴史と筑波大学の50年の歩みを、約1,000枚の写真と図版で振り返るビジュアル版。既刊の史料編(下巻)と令和6年度以降に刊行する史料編(上巻)と通史編を併せ、全4巻の予定。発行部数の一部を実費で有償頒布いたします。

◆本書の内容

第1部 筑波大学の歴史

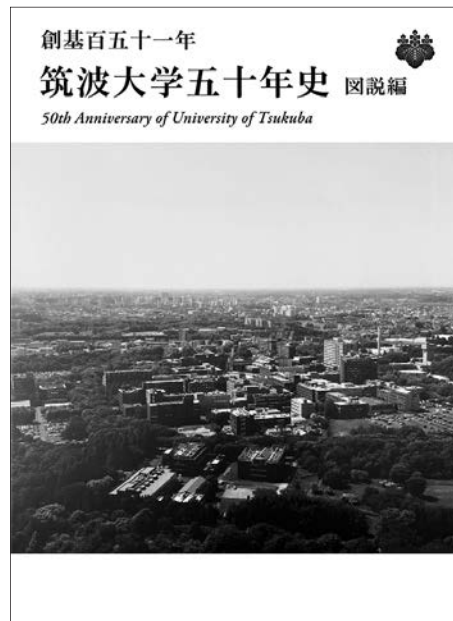
第1章 <草創期> 新構想大学の発足と陸の孤島の学生生活

第2章 <成長期> 国際化時代への対応と学園祭をめぐる対立

第3章 <転換期> 研究科・学群再編と国立大学法人化の波

第4章 <発展期> 学位プログラム化と指定国立大学としての躍進

第2部 前身校の歩み 師範学校から東京教育大学、図書館情報大学まで



A4判上製本、200ページ、CD-ROM付 頒布価格 10,000円(税込) ※国内郵送料含む



詳しいお申し込み方法、支払方法等は
こちらから

★1冊目の「史料編(下巻)」(2023年3月刊行)も在庫がございます。
頒布価格は10,000円(税込)です。
併せてご検討ください。

発行：筑波大学(50年史編纂室) つくば市天王台1-1-1

申込先：筑波大学アーカイブズ 〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
TEL: 029-853-4127 E-mail: univ-archives@un.tsukuba.ac.jp

サステナブルな社会変革に向けた 社会人大学院の役割と展望

地球環境問題の深刻化の中で、環境保全も含めたSDGsと経済の統合的向上を実現する社会変革が急務となっています。そのためにはICTやデジタル技術等の活用だけでなく、組織デザインや社会基盤の設計に係る人文科学的な知が不可欠であり、東京キャンパスの社会人大学院の役割は大きいでしょう。本シンポジウムはこのような問題意識の下、当該領域のアカデミア、実務家をパネリストとして迎え、サステナブルな社会変革を企図したリカレント教育のあり方を深く議論すると共に、本学の理念や取組みを効果的に発信することを目的とします。

2024
3/16 Sat.
13:00 - 16:30

プログラム

学長挨拶

永田恭介 筑波大学長



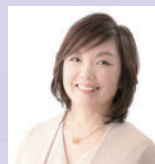
東京キャンパスのこれまでとこれから

大石和彦 ビジネスサイエンス系長



特別講演

伊藤久美 オフィスKITO合同会社 代表
株式会社良品計画 社外取締役



@筑波大学東京キャンパス



特設Webサイトを
開設いたしました
詳細・お申込みは
QRコードから



パネルディスカッション

東京キャンパス社会人大学院の各組織の沿革と社会人教育プログラムの特徴、学位プログラム化を含めて現在の取組現況を広く紹介します。その上で、サステナブルな社会変革に不可欠な人材を育成・輩出していくために、東京キャンパス社会人大学院の役割と必要な体制などについて、修了生を含めて議論します。

ファシリテータ



西尾チヅル

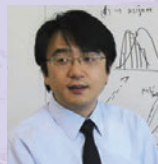
筑波大学副学長

パネリスト



大淵真喜子

人文社会ビジネス科学
学術院
ビジネス科学研究群長



立本博文

人文社会ビジネス科学
学術院
経営学
学位プログラムリーダー



岡田昌毅

人間総合科学学術院
カウンセリング科学
学位プログラムリーダー/
働く人への心理支援
開発研究センター長



山田実

人間総合科学
副学術院長/
リハビリテーション科学
学位プログラムリーダー



久野譜也

人間総合科学学術院
スポーツウェルネス学
学位プログラムリーダー/
スマートウェルネスシ
ティ政策開発研究センター長

丹生谷晋
生井みな絵
塚尾晶子

企業科学専攻 2012年9月修了/カウンセリング学位プログラム 2022年入学
法曹専攻 2021年3月修了
スポーツウェルネス学位プログラム 2019年3月修了



主催 筑波大学ビジネスサイエンス系
事務局 筑波大学社会人大学院等支援室

[https://www.fbs.otsuka.tsukuba.ac.jp/
bs_symposium@un.tsukuba.ac.jp](https://www.fbs.otsuka.tsukuba.ac.jp/bs_symposium@un.tsukuba.ac.jp)



「本気」で結婚を目指す

筑波大学同窓会員の

「成婚」をサポートいたします。

To achieve your happy marriage.

筑波大コース

通常登録料

~~33,000円(税込)~~

▶ 0円

受付時に
「『茗溪』を見た」と
お申し付けください。

46年の実績で成婚までサポート

株式会社ブライダルは創業以来46年にわたり、大学同窓会員の皆様をはじめ、たくさんの方々を成婚に導いてきました。少子化が叫ばれる昨今、当相談所は「幸せな結婚を実現する」という面で社会貢献を目指しています。

特に筑波大学の皆さま向けの「筑波大コース」は大変人気で、多くの同窓会員様にご利用いただいております。この「『茗溪』を見た」とお問い合わせ時にお申し付けいただいた方は、通常33,000円の登録料を【無料】にてご入会いただけます。本気で結婚を考えているお相手との出会いを求める方は、ぜひお問い合わせください。

定期的に「親御様無料説明会」を開催中です。

46年に渡るノウハウで
お子様との会話の秘訣を
お伝えしています。
HP・フリーコールより
お気軽にご相談ください。

1978年創業



あなたと未来をつくる
Bridal



0120-415-412

営業時間：平日 10:00～20:00 / 土・日・祝 10:00～18:00
定休日：月曜日(祝日は除く)・年末年始

東京本社：〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F

ブライダル

検索

<https://www.bridal-vip.co.jp/>



名古屋本社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F



「安心」「安全」「快適」な
ITインフラ環境を最先端の技術で実現



- ・社内ネットワーク
- ・院内ネットワーク
- ・無線 LAN, Wi-Fi
- ・テレワーク, Web 会議
- ・セキュリティ



FAAM



ESMO



No Man



Do RAY

豊富な実績、高い技術力で、皆様に最適な
ITソリューションをご提供いたします。

株式会社FYF

～ ITソリューションでより良い未来を～

会社 HP <https://www.fyf-h.com>
x (旧 Twitter) @FYF_INC

本社 〒277-0843 千葉県柏市明原 1-1-6
TEL 04-7192-8927 FAX 04-7192-8929

関西支店 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 3-15-16 毎日東ビル 4F
TEL 06-4306-4019 FAX 06-4306-4023

九州支店 〒812-0029 福岡県福岡市古門戸町 2-4 KS コモビル 5F
TEL 092-406-4443 FAX 092-406-4453

東北支店 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 1-6-18 東北王子不動産ビル 5F
TEL 022-226-7290 FAX 022-226-7291

北海道支店 〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西 1 丁目 1-2
21 きのしたビル 9F
TEL 011-206-7482 FAX 011-206-7483



【会社 HP】



安全に、快適に、正確に
大曽根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 育子

- ☆お迎え料金無料
- ☆カード利用 OK!
- ☆貸切バス事業者より
安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑 3 丁目 19-4

TEL 029-864-0301
FAX 029-864-4727
メールアドレス <http://www.taxi-e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302
各営業所に通じます

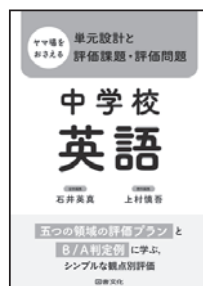
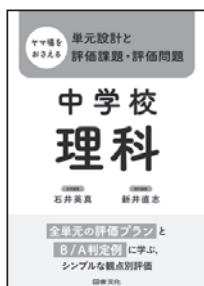
ヤマ場をおさえる

中学校5教科

単元設計と評価課題・評価問題

【全体編集】石井英真（京都大学大学院教育学研究科准教授、
児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ委員）

各定価2,860円



全単元の評価プランと B/A 判定例に学ぶ、シンプルな観点別評価

- 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』に基づき「内容のまとまり」ごとの評価プランを掲載。
- 単元ごとに、重要な2つの評価場面を例示。
評価の難しい「思考・判断・表現」を中心に、評価規準に対応する生徒の学習状況や作品例（B・A）を評価事例として掲載。

国語 吉本 悟（福岡市教育センター指導主事）
社会 高木 優（神戸大学附属中等教育学校教諭）
数学 佃 拓生（釜石市立釜石東中学校校長）
理科 新井直志（筑波大学附属中学校主幹教諭）
英語 上村慎吾（新潟市立白新中学校教諭）

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆国際バカロレア IBDP 課程認定校です
- ◆「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です
- ◆文部科学省 SSH（3期目）認定校です

「SS研究・個人課題研究発表会」
（筑波大学後援）および
「SSH活動報告会」開催のお知らせ

期日：令和6年3月7日(木)

会場：茗溪学園内

内容：本校高校2年生SS研究および個人課題研究（優秀研究）口頭発表・ポスター発表、
2023年度SSH活動成果報告
一般公開いたします

（一般公開などの情報につきましては、ホームページまたは下記メールでお問い合わせください）



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp（見学等） entry@meikei.ac.jp（入試等）